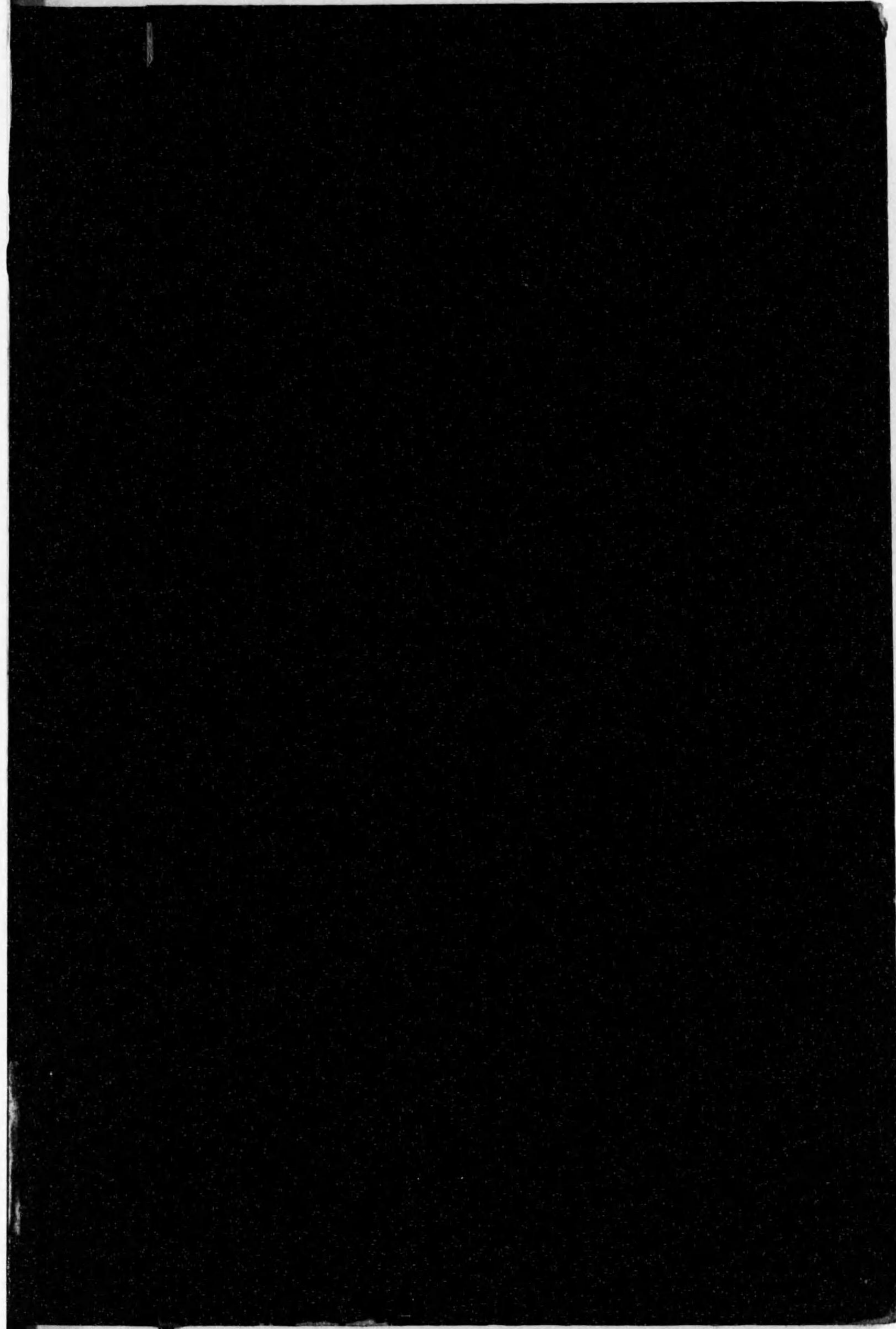




始



548
14



彼等の心

奥村稔

譯註

丸山順太郎校閲

佛蘭西文學譯註叢書第二篇



東京

白水社版

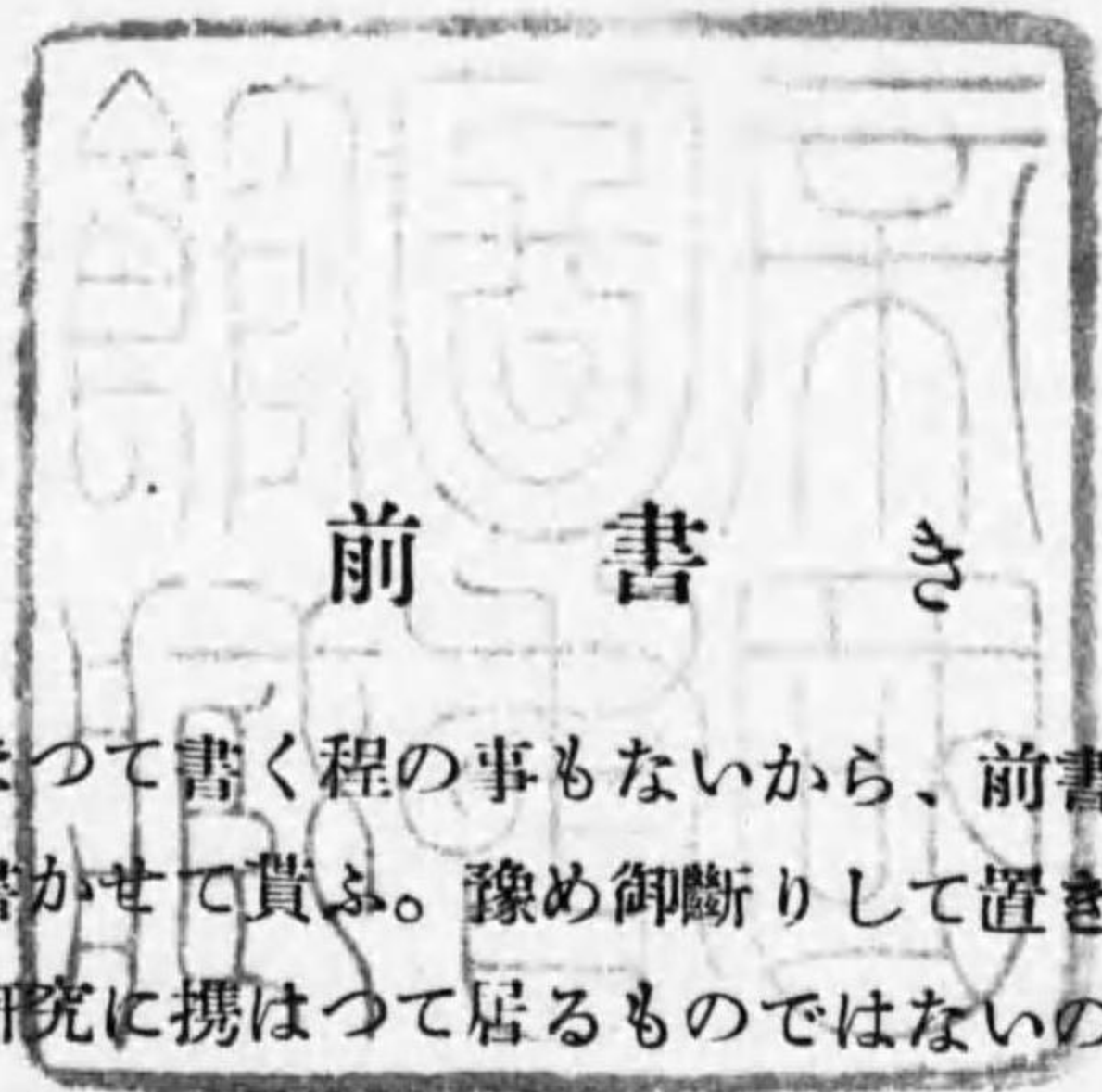
大正
15. 6. 25
内交

548-14

日本人の有つたましひの美しさは、何よりも先づ其の雅びやかさなり。この叢書は其の雅びやかなるものを、こよなく雅びやかなる佛蘭西の言葉をもて益々美しからしめんとす。今更ながら思ふ、佛蘭西の言葉を學び識る心には、深き味ひの天地あるを。

白水社主

A. m. m.



前書き

序と改まつて書く程の事もないから、前書きとして二三譯後の雜感を書かせて貰ふ。豫め御斷りして置き度いのは、譯者は佛文學の研究に携はつて居るものではないので、成心を以て原作者の人及び著作を批評出來ないことである。とは云へ譯者は「彼等の心」を譯出するに當つて、何かを考へ、何かを感じ、何かを味つた。この？を解説することが、譯者をして前書を書かしめる。譯者にとつて佛蘭西語は、日常の糧、パンであり、甘味な葡萄酒である。然しそれは口に入れる日常の糧のやうに、その味をかみしめもせず飽食して居た。かみかへす時が來た。譯者の胃がそれを消化し盡すや否やを恐れる。本書は Henri Lavedan の對話戯曲の中から、殊に“Leur Coeur”と“Leur beau physique”の内から成るべく grivois で（ある）もの——それはある若干の批評家がラヴダンの頭につけた榮譽ある稱號であるが——を避けて、ラヴダンの對話戯曲の特色を示すものを選んだ。が、撰別の仕方が拙かつた爲め、充分に特異な所を浮上らせることが出來なかつた。ラヴダンは、巴里戯曲作者と謂はれる。彼の著作は、巴里に終始して居る。その中には際立つて“parisianisme”（巴里情調）の漂つて居るのを見る。彼の名は、巴里風の戯曲によつて代表されて居る。劇と云ふものが國民性と不可離の關係にあるならば、巴里戯曲は、佛國劇の名によつて、ラヴダンを保持して行くことであらう。

以下ジュール、ルメートルの現代作家の文藝批評の中に載せられたラヴダン小照を經とし、その他二三の批評家の批評と私

感を緯として、前書きの締め括りにしよう。ラヴダンの書いた物を読むと、云ふにいはれない風味があるが、その風味は一躰何處から來るか云ふのに、大躰見當が付けられる。それと云ふのは、ラヴダンは、表面はきらびやかに見えるが、中味の腐つた現代の社會を、鋭い機智を以て描寫した計りでなく、それと同時に、不言不語の間に、束の間の命を享けながらも、何處かしら土台のしつかりした傳統的なもの握つて放さない精神で、批判を加へて居るからである。ではそれは何かと云ふに“La vieille France”だと云ふ外はない。これがラヴダンの著作を嚙みしめて見た味であるが、その舌觸りはどんなものと云ふのに、それは次のやうである。ラヴダンは、初め、見聞きするものに興味を以て、稍々アルフォンス、ドーデエ風の繪畫的のものを書いて居た。これで克明に筆を練つてから、俗世間の風習の描寫に移つて行つた。ジツプの直後に現はれ、ジツプの用語に色をつけて、それを力強くした。恐らくラヴダン位、廿世紀の初頃の“巴里言葉”をしつかり喋つたものはない。ラヴダン程、單語、措辭法、敘述的比喩、調子、身振、それから、尻の切れた奇妙な文章の極く末端に持つて、巴里言葉を轉がしたり、色々な隱語を疊み重ねて、透かせて見せたりしたものはない。時によると彼獨特の癖を出して、鼻持ちのならない俗臭を匂はせ、少々精神錯亂の初期ではないかと疑はせることもないではない。

ラヴダンはまた、化粧法やしやれものの身だしなみに通じて居た。だから彼の觀察はとかく誇張され、想像にまかせ狂奔せるファンテジーの筆を驅つて居る。コント作家や對語戯曲家は、互に齧を削つて、道德からとか何とか色々な口實から、上品優雅と云はれる惡風の途方もない描寫をやつて居るが、ラヴ

ダンには、先手を打たれやしないかと云ふ氣づかひ、他人よりも一層痛撃を加へて、俗世間の風習を、赤裸々に描かんとする熱情、興奮、醉興な書振がある。略言すると、息をはづませ、熱狂し躍り狂つてる誇張が、際立つて見える。

しかしながら、教養ある基督教徒としての傳統的精神が、内奥に隠されて居る。随つてデュマ、オージェの後に起つた劇改新の運動の渦中にあつて、彼は moraliste であつた。ラヴダンは、華やかな生活の surgit amari aliquid (倦怠のない快樂はない) ことを唱へた。浮調子なききらびやかな生活の奥底にある、云ふに云はれない倦怠、空虚。この暗黒な沈鬱は、放蕩を事とする者が、遊び終つた後は勿論遊びの最中にも、彼等を襲つて來ることを、あざやかに描いて居る。この空虚の中には如何なるものが蠢動して居るか。また普通なら鳴を靜めて大人しくして居るニヒリズムが、年老いた放蕩兒の手にかかつてどんなに物凄い地獄臭いものになるかをあらひざらした。前に云つた“La vieille France”精神は、こゝに現はれて居る。彼の描寫した社會は、金持の放蕩者と、御家柄である貴族の放蕩兒とのそれである。“Bourgeois gentilhomme”のテーマを彼獨特の仕方に於て取扱つたと云ふ批評もあるが、彼はそれ以上に貴族社會の描寫を苛酷と思はれる愚直さを以て行つたので、これは、彼が貴族の歴史上での役割を識り、確固たる同情と理解を持つて居たのによる。彼の胸中には基督教的感情が常にひそんで居て、召集ラツパの音にひよつくり出て來る。彼は、巴里の背後否巴里の中にも province (田舎) のあることを示して居る。之を換言すれば、現在の空虚の中に騒ぎ廻つて居る者の背後には、過去の信仰に生きて居る者のあることを示して居る。氣持のよい繪畫的の筆、思ひ切つた諷刺、彼の性格そのものの不安な

moraliste, 惨めな肉の「小宴」の念の入つた觀察、やんちゃではあるが“péchés de l'esprit”（精神の冒瀆）は敢てしない可愛い坊ちゃんである。

終りに、本書を譯出するに當つて、多大の御盡力を頂いた丸山、内藤兩先生に心からの感謝の意を表する次第である。本書は、十二分には仕上げがかゝつてないかもしれない。粗砥のまゝであらう。後の仕上げは讀者諸兄に御委せする。

大正十四年十二月

譯 者

Le Verre à Champagne

シヤムパーニユの酒杯

LE VERRE A CHAMPAGNE

MONSIEUR.
MADAME.
LA DOMESTIQUE AMÉLIE.

Intérieur simple, mais aisé.¹ — Monsieur et madame achèvent de déjeuner. Ils ont eu plusieurs personnes à dîner la veille.

MONSIEUR.—C'était très bien, très réussi hier, notre petit dîner. L'ami Châteaulin a mangé comme quatre.²

MADAME.—La timbale milanaise³ était délicieuse.

MONSIEUR.—J'en ai repris trois fois.

MADAME.—Tu aurais pu te rendre malade. J'espère qu'on n'a rien cassé, au moins?

MONSIEUR.—Si; Amélie a cassé un verre à champagne. Je l'ai vu.

MADAME.—Tu es sûr?

MONSIEUR.—Je te dis que je l'ai vu. Il est craqué⁴ du haut en bas, en biais.⁵

MADAME.—Ça fait le huitième. Sur deux douzaines!

MONSIEUR.—Chut! (*Amélie entre dans la salle à manger.*)

MADAME, à Amélie.—J'espère que vous n'avez rien

- (1) aisé (形容詞. 生計の豊かな. と云ふ意).
(2) manger comme quatre (熟語. たらふく食べるの意).
(3) la timbale milanaise (timbale は料理用の焼型. 足のない

シヤムパーニユの酒杯

主人.
妻.
下女アメリー.

小ざつぱりはしてゐるが. 裕福らしい部屋—主人と妻は. 晝食を終る. 前夜数名の客を. 晩餐に呼んだのであつた.

主人—夕べの晩餐は. 上出来だつた. シヤトラン君は. よく食つた.

妻—ラ, タンバール, ミラネーズは. 結構でした.

主人—わしは. 三皿もやつた.

妻—御身體にさわりでもしたら大變ぢやありませんか. あの何にもこはしませんでしたせうね?

主人—いや. こはしたよ. シヤムパーニユの酒杯を一つ. アメリーが. 見とつたわしは.

妻—ほんとですか?

主人—見とつたと云ふに. 上から下まで. 斜めにひびを入らしたんだ.

妻—八つめです. 二打のうちで!

主人—しつ! (アメリー食堂に入つて来る)

妻—(アメリーに)—お前. 何にもこはさなかつただらう

- 金屬製の盞. こゝは. 料理の名).
(4) craqué (craquer より轉來した形容詞).
(5) en biais (副詞. 斜にの意).

cassé hier?

AMÉLIE.—Non, Madame.

MADAME.—Tous les verres sont intacts?

AMELIE.—Oui, Madame.

MADAME.—Ah! (*Elle regarde Monsieur qui ne bronche⁶ pas. Amélie sort.*)

MONSIEUR.—C'est trop fort.⁷ Craqué du haut en bas, en biais. Je l'ai vu.

MADAME.—Il n'y a qu'à s'en assurer, c'est bien simple. (*Elle se lève, ouvre le grand bahut⁸ et regarde parmi les verres.*) Le voilà, je l'aperçois. (*Elle prend le verre en question et le pose sur la table.*) Ah! il est bien cassé.

MONSIEUR.—Parbleu! Je n'ai pas la berlue.⁹

MADAME.—C'est désolant¹⁰ (*Amélie rentre.*) Vous avez cassé un verre, ma fille; pourquoi ne me l'avez-vous pas dit?

AMELIE.—Mais, Madame. . .

MADAME.—Chaque fois que vous cassez, je veux que vous me le disiez, je ne vous gronderai pas. Ce n'est pourtant pas bien difficile. Tandis que si vous me le cachez. . .

AMELIE.—Je ne cache rien à Madame.

MADAME.—Si, puisque vous ne me dites pas quand vous cassez.

(6) bronche (broncher の現在第三人稱. 身動するの意.)

(7) c'est trop fort! (驚きを表はす. 間投詞. そりやあんまりひどいと云ふ意.)

(8) le grand bahut (大きな戸棚のこと.)

ね, タペは?

アメリー—はい, 奥様。

妻—酒杯は, すつかりそろつてるかい?

アメリー—はい。

妻—さう! (妻. 直立不動の主人を凝視する. アメリー出て行く)

主人—こいつは非道すぎる。上から下へ斜にひびを入らしたのを。見たんだ。

妻—造作もないことです, 確かめて見ればよいのは (立上つて, 大きな食器棚の戸を開けて. 酒杯の中に眼を通す) ことです。解りました。(問題の酒杯を取り出し. 卓子の上に置く) まあ! ほんとにこわれてますこと。

主人—ほうら見ろ! わしの見る眼に, 間違があるものか。

妻—いやになつちまうね。(アメリー又入つて来る) お前はしたぢやないか, 酒杯を一つ。何故, 私に云はなかつたの?

アメリー—でも, 奥様.....

妻—こはしたら, その都度, 私にそう云ひなさい。叱りはしません。お前, 譯ないぢやないか。だがお前が隠す段になると.....

アメリー—私何にも奥様に隠し立てなんかいたしません。

妻—だつて, こはして黙つてるぢやないか。

(9) je n'ai pas la berlue (la berlue は. 一時の眩暈を云ふが. avoir la berlue と熟語となると. 見そこなふと云ふ意になる)

(10) C'est désolant (形容詞. なげかはしい. 憂ふべきの意.)

AMÉLIE.—Ça peut arriver à tout le monde d'avoir la main lourde¹¹ . . .

MADAME.—Sans doute, mais il faut me le dire.

AMÉLIE.—Je ne savais pas, Madame.

MADAME.—Vous le saviez; le jour de votre entrée,¹² je vous ai avertie.

AMÉLIE, avec l'air de quelqu'un qu'on fatigue.—Mais oui. Mais oui.

MADAME.—Et puis ce que je vous ai dit aussi, c'est que je ne veux pas qu'on me réponde, je ne le veux pas. . . .

AMÉLIE.—Je ferai observer à Madame. . .

MADAME.—Rien du tout. Je ne veux pas qu'on me réponde. . .

AMÉLIE.—C'est parfait, Madame, je ne répondrai pas.

MADAME.—Même pas ouvrir la bouche, entendez-vous?

AMÉLIE.—J'entends.

MADAME.—C'est déjà de trop ce mot-là.

AMÉLIE.—(Elle soupire.)

MADAME.—Ni soupirer.

AMÉLIE.—(Elle ferme les yeux.)

MADAME.—Ni fermer les yeux avec insolence.¹³

AMÉLIE.—Je pensais.

MADAME.—Ça n'est pas le moment. A-t-on jamais vu! Bientôt on ne pourra plus faire la plus légère observation à ses domestiques. Eux, ils auront le droit

(11) avoir la main lourde (過をする. 仕損じるの意).

アメリー——どなただつて、そそうは、ございます.....

妻——そうだけれど、そう云はなければいけません。

アメリー——私、存じませんでした。奥様。

妻——お前。知つてたのぢやないか。奉公に來た日に、そう云つといたぢやないか。

アメリー——(うるさいと云ふ容子で) ——それで御座いました。

妻——それに。口答をしてはいけないとも、云つといたぢやないか。私は.....

アメリー——奥様申上げる.....

妻——いけません。口答へしては.....

アメリー——よろしう御座います、奥様、口答いたしません。

妻——口を開けても、いけないよ、いいかい?

アメリー——承知しました。

妻——それがもう餘計な言葉だよ。

アメリー——(溜息をつく)。

妻——溜息を、ついてもいけません。

アメリー——(眼を閉ぢる)。

妻——失禮な眼の閉ぢ方をしてもいけません。

アメリー——考へ事してたんです。

妻——そんな時ぢやないよ。なんて云ふ子だろう! 今に、下男下女には、一寸した小言も云へなくなるだらうつてことさ。それにお前達の方では、権利付くで、お皿を、のこら

(12) le jour de votre entrée (雇入の日の意).

(13) avec insolence (横着に. 横柄にの意. 副詞).

de briser toute votre vaisselle, d'abîmer tout votre mobilier, et il faudra encore les remercier!

AMELIE.—Ah! si Madame se met à crier!

MADAME.—Qu'est-ce que c'est? (*A son mari.*)
Crier! Tu l'entends?

MONSIEUR, *paterne*.¹⁴—Amélie, hé? Faites un peu attention à vos paroles. Et puis rentrez dans votre cuisine.

MADAME.—Non pas, restez. Je veux qu'elle reste, et qu'elle m'écoute jusqu'au bout.

AMELIE.—Comme Madame voudra.

MADAME.—Tous les jours, vous cassez: une fois, c'est le sucrier, une fois c'est un verre du beau service,¹⁵ une fois c'est autre chose, jamais vous ne le dites, et par-dessus le marché¹⁶ vous trouvez des raisons quand on vous réprimande!¹⁷ eh bien, ma fille. . .

AMELIE.—Ça m'est désagréable. J'aime mieux payer ce que je casse, et qu'on me laisse tranquille.

MADAME.—Oui vraiment! Et si je vous prenais au mot?¹⁸ Vous le mériteriez. Si je vous faisais payer le sucrier ancien, en porcelaine de Chine, qui m'a coûté cinquante francs, qu'est-ce que vous diriez?

AMELIE.—Je dirais que je refuserais.

MADAME.—Parce que?

AMELIE.—Parce que c'était un sucrier bien ordinaire

(14) *paterne* (形容詞. 優しく. 父のやうにの意).

(15) *c'est un verre du beau service* (—揃の客用の酒杯の意).

(16) *par dessus le marché* (その上. その他の意).

(17) *réprimande* (*réprimander* の現在三人稱. 能動詞. 叱責す

ず壊はしたり, 家財道具を, 臺なしにして, その上にこつちでお禮を云はなけりやならないことになるんだからね!

アメリー——奥様のやうにそう, わあわあおつしやつては!

妻——なんです? (主人に) わあわあ云ふだつて! 貴方!

主人(優しく)——アメリー? 少し, 言葉に氣を付けてお呉れ。さ, 台所へ御歸り。

妻——いえ, いけません。こゝにおいで。いつてはいけません, そして私の云ふことをすつかり御聞き。

アメリー——えい, よろしうございますとも。

妻——毎日毎日, こはしてるぢやないか。やれ, 砂糖入だ。やれ客用の揃の酒杯だ。やれ何だかだと。そして一口も決して, こはしたつて云はないぢやないか。そればかりか叱られる段になると, なんとかかんとか理窟をつけて! ほんとに, お前.....

アメリー——私はそれが不愉快なのですもの, こはしたものは, 御立換しますから, がみがみ仰言らないで下さい。

妻——さう, ほんとうなの! それぢあ私がお前の云ふことを本氣に取つたらどうするかえ? こらしめにさうしてやる値打があるんだよ。五十法もした支那焼の古い砂糖入れも立換ると云つたら, お前何と云ふだらうね?

アメリー——私, おことわりしますと申しますわ。

妻——何故?

アメリー——だつて, 奥様, あの砂糖入は, そんな値打のない安物でしたもの。

る. 譴責する).

(18) *Si je vous prenais au mot* (*prendre qqn au mot*. 人の言をそのまゝに取る. *Si* の次に來る動詞は. 直接法半過去の形を取る).

qui n'a jamais valu ce que vous racontez.

MADAME.—Tenez, vous êtes une pauvre ignorante, vous n'y connaissez rien.

AMÉLIE.—Je ne sais pas si je m'y connais dans la porcelaine, mais il y a d'autres affaires où je m'y connais, des affaires où si je voulais parler. . .

MADAME.—Hein! Quoi? Des allusions?¹⁹

MONSIEUR, qui commence à trouver que cela dure trop.—
Là, c'est bien. En voilà assez.²⁰

MADAME.—Je veux qu'elle m'explique tout de suite ce qu'elle a eu l'air de vouloir insinuer.²¹

MONSIEUR.—A quoi bon? La prochaine fois, quand elle cassera, elle ne manquera pas de le dire; elle me le dira à moi, là. N'est-ce pas Amélie?

AMÉLIE.—Oui, Monsieur.

MONSIEUR, à sa femme.—Tu vois, elle promet.

MADAME.—Je veux qu'elle m'explique ce qu'elle a eu l'air, à l'instant, de vouloir insinuer.

MONSIEUR.—Ah! tiens, tu es tout de même d'un entêtement²² bien drôle!

AMÉLIE.—Ça n'est pas moi qui le fais dire à Monsieur!

MADAME.—Elle m'injurie, à présent. (*A son mari.*)
Grâce à toi, elle m'injurie!

AMÉLIE.—Mais non, Madame.

MONSIEUR.—Mais non, ma bonne.

MADAME, à Amélie.—Qu'est-ce que vous vouliez

(19) des allusions (諷言. あてつけの意. 女性名詞).

(20) En voilà assez (もう澤山の意).

妻——まあ, お前もなんてわからずやの, 値打知らずだらう。

アメリー——瀬戸物の値打なんか知つてゐるがどうか知りませんが。ほかによく存じてゐることもございますわ。若し私が申し上げましたらそれこそ.....

妻——えい! なんです! あてこすりを云ふのかえ?

主人——(餘り長びくと思つて)——さあさあ。もうよし。大概にしたらいぢやないか。

妻——いえ, 私は, あの子があてこすりを云つてますから, 今直に, 譯を云はせなければ承知出来ません。

主人——下らない? これからは, なにかこはしたら, その都度きつと私にさう云ふよ。ね! アメリー さうだらう?

アメリー——はい。

主人——(妻に向つて) ほら, 約束してるぢやないか。

妻——いえ, どうしても云はせます, さつきの奥齒にももの狭まつたやうなことのわけを。

主人——おい! お前ひどくしつこいぢやないか!

アメリー——これは旦那様が, 勝手に仰言つてるんですよ!

妻——今度は, 私を踏付けにしてるんだね(主人に向つて)
貴方のお蔭で, 私が踏付けにされるんです。

アメリー——いいえ, 奥様。

主人——そうぢやないよ。

妻——(アメリーに) お前, 何か云ひたさうにして居たね, さつき?

(21) insinuer (能動詞. 暗示する. 諷示する).

(22) un entêtement (男性名詞. 頑固. 強情の意).

dire, tout à l'heure?

MONSIEUR.—Ah! zut! Je ne m'en mêle plus.²³

AMÉLIE.—Tout à l'heure?

MADAME.—Oui, que si vous ne vous reteniez pas de parler. . .

AMÉLIE.—Eh bien, je dirais des choses. . .

MADAME.—Quelles choses?

AMÉLIE.—Des choses que je sais.

MADAME.—Dites-les.

AMÉLIE.—Je ne peux pas.

MADAME.—Pourquoi ça?

AMÉLIE.—Parce que Madame m'a défendu.

MADAME.—Moi! Je vous ai défendu de dire certaines choses?

AMÉLIE.—En plein, Madame.

MADAME.—Vous mentez! Vous mentez effrontément. Rentrez dans votre cuisine, ma fille, allez, sortez.

MONSIEUR, qui s'en mêle de nouveau.—Non, non, pas encore.

MADAME, à son mari.—En voilà assez, va. N'éternisons pas.

MONSIEUR.—Elle s'est trop avancée à présent pour ne pas achever.

MADAME.—A quoi bon? Dorénavant,²⁴ c'est convenu, quand elle cassera, elle le dira, à toi ou à moi, n'est-ce pas, Amélie?

(23) je ne m'en mêle plus (se mêler de quelque chose 或事に、
関り合ふ、手を出す等の意)。

主人——あゝ! ちえつ! わしは、もうしらん。

アメリー——さつきですか?

妻——さうよ、お前がだまつてゐなかつたらとかなんとか.....

アメリー——だまつてゐませんでしたら。私は、色々な事を.....

妻——どんな事をだえ?

アメリー——私の存じてる事です。

妻——云つて御覽。

アメリー——いいえ、出来ません。

妻——なぜさ?

アメリー——だつて、奥様が、お止めになりましたもの。

妻——私が! お前に、あることを言つてはならないつて口止めしたつて?

アメリー——ええ、奥様。

妻——うそばつかり! お前もひどいそつきだね。さあ、台所へ御歸り。出てお行き。

主人——(再び、割つて入つて)——いや、未だだ。

妻——(主人に)——もういいぢやありませんか、さ。これでお終ひにしませう。

主人——こうなつては、けりを、つけなけりやならん。

妻——つまらない? これからね、いいかい、こはした時には。旦那様か私に、そう云うのです。ね。アメリー?

(24) dorénavant (副詞、今後、爾後)。

AMÉLIE.—Oui, Madame.

MADAME, à son mari—Tu l'entends, elle donne sa parole.

MONSIEUR.—Elle vient de te viser d'une façon trop directe. . . Je veux la confondre²⁵. . . (*Très sévère.*)
Amélie, je vous ordonne de parler.

AMÉLIE.—Et si je ne veux pas?

MONSIEUR.—Je vous renvoie.

AMÉLIE.—Comme je serai aussi renvoyée²⁶ si je parle, je peux bien y aller, à présent. Eh bien, Monsieur. . .

MADAME, à son mari—Ne l'écoute pas, ça n'est pas vrai!

AMÉLIE.—J'en suis désolée, madame, mais c'est trop tard. (*A Monsieur.*) Eh bien, si j'étais que Monsieur, je n'inviterais plus à dîner monsieur Châteaulin, et plus jamais je ne le recevrais.

MADAME.—C'est une infamie!

AMÉLIE.—Parce que, sauf le respect,²⁷ lui et Madame ils font pire ensemble que de casser un sucrier. Là.²⁸ Maintenant je crois que je peux aller faire ma malle. Monsieur ne me garde pas?

MONSIEUR.—Non, ma fille. (*Madame est assise, renfermée dans une rage muette et défensive.*²⁹ *Amélie sort.*)

(25) confondre (能動詞. 閉口させる. 困らせるの意).

(26) renvoyé (renvoyer は能動詞であるが. être renvoyé と受動詞に轉化して. 送り出される. 解雇されるの意).

アメリー——はい。

妻——(主人に)——御聴きなさつて。あの子、保證しますよ。

主人——あの子は今お前に、餘り當てつけがましく出たから、.....わしは、あの子を、こらしめて.....

(威丈高になつて) アメリー、さあ話せ。

アメリー——若し、お話ししませんでしたら?

主人——暇をやる。

アメリー——お話しても、どうせお暇になるんですから。お話してもよろしう御座います。それでは、旦那様.....

妻——(主人に) 聞いぢやいけませんよ。うそなんですから!

アメリー——奥様、御氣の毒様、もう遅うございます、(主人に) あの、私が、旦那様でしたら、シヤントラン様は、もふ、夕食には、御招きいたしません。

妻——ひどいことを!

アメリー——何故つて申せば、失禮なこつてすが、あの方と奥様は、御兩人で砂糖入をこはすよりも、もつと悪いことをなさてるんですもの。では、これで荷仕度をしに参りませう。旦那様も、御暇を下さるんですね?

主人——うん (妻は、口もきかず憤怒をこらへて、腰を掛ける。アメリー出て行く。)

(27) sauf le respect (失禮ながら. 憚りながらの意).

(28) faire ma malle (出發の用意をするの意).

(29) dans une rage muette et défensive (rage は、激怒とか忿

MADAME, *faisant bonne contenance*,⁽³⁰⁾ *avec un sourire bien forcé, à son mari.*—Hein? crois-tu! ces gens-là, quelle boue?⁽³¹⁾

MONSIEUR. *glacé.*—Oui. Tu aurais mieux fait, tiens, de ne rien dire pour ce verre. Et puis, veux-tu venir dans ma chambre?

MADAME.—Pourquoi faire?

MONSIEUR.—Causer sérieusement.

怒とかの意. 物も云はず. 怒をこらへての意).
(30) *faisant bonne contenance* (*contenance* は. 舉動. 措置. 等の意.....*faire boune contenance* で. 覺悟の色を見せる

妻——(主人に. しらばくれて. 強ひて笑を作り)——あの? 貴方! なんて, 下女達は, 卑しいんでせう?

主人——(冷かに)——うん. お前, 酒杯のことなんか, 何にも云はなけりやよかつたのに. 私の部屋まで来てお呉れ?

妻——どうなさるんです?

主人——話がある. 大切な。

とか. 狼狽した色を見せないとかの意. 白らばくれての意.
(31) *quelle boue!* (*boue* は. 女性名詞. 泥 の意. 轉じて. 卑賤. 下劣の意に用ひられる).

○ Les Jambes

脚

LES JAMBES

LE PETIT CANCALE, 20 ans.
BARON BOTERNEAU, qui avoue 59.
ALPHONSE, valet de chambre de Cancale.

Chez Cancale, vers les deux heures de l'après-midi.—Un salon où sont déposés sur les dossiers des sièges, des pourpoints,¹ hauts-de-chausses,² petits manteaux: collerettes,³ toquets,⁴ etc., à se croire chez un costumier. Cancale va et vient, très affairé, Boterneau, dans un fauteuil, fume un cigare.

BOTERNEAU.—Alors, vous dites que c'est jeudi, ce bal chez les Berthevin?

CANCALE.—Oui, mon bon.

BOTERNEAU.—Et vous êtes en duc de Joyeuse?⁵

CANCALE.—Oui, mon bon.

BOTERNEAU.—Je vous félicite. Étant données vos jambes. . .

CANCALE.—N'est-ce pas? Il m'était difficile de choisir, en dehors du maillot et du Henri III?⁶

BOTERNEAU.—Absolument.

CANCALE.—Elles sont bien, pas vrai? mes jambes.

BOTERNEAU.—Charmantes.

CANCALE.—C'est ce qu'on me dit de tous les côtés.

- (1) des pourpoints (男子用の胴衣. 男性名詞).
(2) hauts-de-chausses (古風の股引. 男性名詞).
(3) collerettes (襟. 襟飾. 女性名詞).
(4) toquet, 小頭巾. 男性名詞).
(5) duc de Joyeuse (ハンリー三世の寵臣十六世紀の人).

脚

ル. プティ. カンカール, 二十才.
ボテルノー男, 自稱五十九才.
アルフォンス, カンカールの下男.

カンカールの宅. 午後の二時頃. 客間の澤山の腰掛の脊には. 古めかしい胴衣. 股引. 小外套. 襟飾. 小頭巾等が. 陳へ掛けられてあつて. 衣装屋に行つた云ふ趣. カンカール, 忙しそうに. 往きつ戻りつして居る. ボテルノー. 脇掛椅子で. 葉巻を燻らして居る.

ボテルノー——では, ベルトヴァンの所で, 例の舞踏會があるのはこの木曜だと言ひだつたな?

カンカール——さうです.

ボテルノー——それで, あんたが, ジョアユウズ公に, 假装する?

カンカール——ええ。

ボテルノー——それは, 結構. あんたの脚ぢやつたら.....

カンカール——さうでせう? 肌衣とハンリー三世式の着物以外には. 私に向くのは一寸御座いますまい?

ボテルノー——いかにも。

カンカール——ほんとに, 私の脚, いいでせう?

ボテルノー——可愛いぢや。

カンカール——あつちからも, こつちからも, そう云は

- (6) il m'était difficile de choisir, en dehors du maillot et du Henri III (maillot は. 肌衣. Henri III は. 十六世紀の佛國王で. この時代の服装は. とても變なものであつた. Noces du duc de Joyeuse の繪を見ると. その一斑を知ることが出来る. こゝの意は. 肌衣とハンリー三世風の服に

Et j'en parle sans fausse modestie,⁷ parce qu'après tout, je n'y ai aucun mérite. C'est le Créateur qui les a faites comme ça! Bénissons-le, mon bon.

BOTERNEAU.—Je sais ce que c'est. J'ai été comme vous, quand j'avais votre âge. Vous êtes trop jeune pour. . .

CANCALE.—Mais non. Mais non. Je me rappelle avoir entendu dire bien des fois à mon oncle, et aussi à mon père: “Tu vois bien, ce vieux daim⁸ de Boterneau? Il a eu des jambes étonnantes!”

BOTERNEAU.—Oui. Où qu'a sont à présent.

CANCALE.—A sont là,⁹ parbleu! dans votre pantalon. Elles ne sont pas envolées.

BOTERNEAU.—Sans doute. Elles sont toujours là. Mais c'en est d'autres. Plus les mêmes.

CANCALE.—Allons, allons. N'attristez¹⁰ pas mes vingt ans.

BOTERNEAU.—Vous avez raison, ça n'avance à rien.

CANCALE.—A rien du tout, mon bon. Et puis, ce n'est pas pour ça que je vous ai prié de venir. Non. Précisément parce que vous avez de la jambe et que vous n'êtes pas un profane,¹¹ je tiens à avoir votre avis, et pour ce bal Berthevin, je ne remuerai pas un doigt sans vous consulter.

するより. しかたがないの意).

(7) sans fausse modestie (無遠慮に. 卒直に云つての意).

(8) ce vieux daim (鹿の一種. こゝでは. 老ぼれぢぢひのこと daim は. 俗語では. Niais, imbécile の意).

れるんです。私も遠慮しないで云ふんです。私が何も細工したんぢやなし。こんな風に、御作りになつたのは、神様です! 神様を祝福ませう。

ポテルノー——そりやわしも知つとる。わしも、あんたの年頃には、あんたのやうな脚をしとつた。あんたは、未だ若すぎるから.....

カンカール——いえ、いえ、私は、叔父や父までが、こんなことを云つてたのを、何度も、聞きました。“お前、ポテルノーの御老人はね、昔には、すばらしい脚を、持つて居なすつたんだ”つて。

ポテルノー——その通りぢや。だが今ぢや、跡形もありあせん。

カンカール——貴方のズボンの中に、ありますよ。どこへもとんで行きあしませんよ。

ポテルノー——それあさうだとも! こゝにあるが、他の脚ぢや、昔のぢやないわ。

カンカール——さあ、さあ、廿の私の氣をくさらせるのは、止めて下さい。

ポテルノー——尤もぢや。こんな愚痴は、何の役にも立ちはないわ。

カンカール——ほんとですよ。それに、私が、お出を願つたのは、愚痴なんかを伺ふ爲ぢやないんです。そうですとも。貴方が、昔には、立派な脚を、持つてらしたし、それに、通人でも被居るから、御意見を伺ふと思つたからです。こんどの舞踏會は、貴方の御指圖なしには、指一本も、動かさない積なんです。

(9) A sont là (そこにあるとの意).

(10) attristez (不定法 attrister 悲しませる. 物悲しくする).

(11) un profane (俗人. 凡人, 門外漢の意).

BOTERNEAU.—Vous êtes trop gentil!¹²

CANCALE.—Je ne suis pas gentil, je suis égoïste. Je blague,¹³ mais soyez persuadé que je sais à qui je parle.

BOTERNEAU.—Je vous écoute.

CANCALE.—Voilà, mon bon. Ah! d'abord... (*Il sonne, le valet de chambre paraît.*) Alphonse, apportez-moi les copies.

ALPHONSE.—Avec la boîte à maillots?

CANCALE.—Bien entendu. (*Alphonse sort.*) —C'est une idée que j'ai eue, très ingénieuse, et très pratique. Sur soi-même, on ne voit rien. Aussi, pour mieux me rendre compte de l'effet des maillots, des reflets, du jeu des nuances,¹⁴ de tout enfin, j'ai fait mouler mes jambes, les deux... il y a de ça six mois.

BOTERNEAU.—Une seule aurait suffi.

CANCALE.—Non pas. La droite n'est pas la gauche, et réciproquement. C'est comme les feuilles des arbres... Vous savez qu'il n'y en a pas deux, dans toutes les forêts de la terre, qui se ressemblent?

BOTERNEAU.—On le prétend, mais ça n'a jamais été vérifié.

CANCALE.—Enfin, les savants l'affirment. J'ai donc fait mouler mes deux jambes...

BOTERNEAU.—Par qui?

CANCALE.—Par un habile praticien.

(12) vous êtes trop gentil! (とても親切な意).
(13) blague (blaguer. 空言を云ふ. 駄法螺をふく).

ボテルノー——そりや、殊勝な!

カンカール——殊勝の事なんかありません、私は、我儘者です。申戯を言つて居りますが、相手のあなたを深く信用して居るのです。

ボテルノー——承りませう。

カンカール——實はかうなんです! 先づ.....(呼鈴を鳴らす。下男現はる。)アルフォンス、模造を、持つて来て呉れ。

アルフォンス——肌衣の箱も、持つて参りますか?

カンカール——勿論 (アルフォンス。出る。)—私は、とても巧い、とても実用的なことを、工夫しました。私の身躰ぢや、何にも分りません。だから、肌衣の具合、着映え、色合何やかやをよく識らうと思つて、脚の型を取らせました。兩脚の.....六ヶ月前に。

ボテルノー——一つで、よかつたらうが。

カンカール——いえ、右脚は左脚ぢやないし、左脚は右脚ぢやないでせう。丁度木の葉が.....貴方、何處の森に行つたつて、二つと同じ木の葉は、ありませんでせう?

ボテルノー——そんな事を 皆が云ふが。確かめられては居らん。

カンカール——ですが、學者もさう斷言します。それで、私は、二つの型を取らせました.....。

ボテルノー——誰にぢや?

カンカール——上手な職人にです。

(14) jeu des nuances (様々な色のあやのこと).

BOTERNEAU.—Je m'imagine que ça doit être très désagréable, cette maçonnerie?

CANCALE.—Faut pas être chatouilleux.¹⁵ Et puis ça fait du mal quand on retire les moules, parce que ça colle et que ça vous arrache votre gentil duvet.

BOTERNEAU.—Bah!¹⁶ Il repousse après. (*Alphonse reparait, apportant deux grandes boîtes, l'une longue, l'autre courte et carrée. Il les dépose à terre. De la boîte longue, il sort deux jambes grandeur nature en plâtre, coupées en haut de la cuisse.*)

CANCALE, à Alphonse.—Posez-les là, sur le piano. C'est parfait.

ALPHONSE.—Et la boîte aux maillots?

CANCALE.—Mettez-la sur le fauteuil. (*Alphonse sort.*)

BOTERNEAU, qui s'est levé et s'est approché des plâtres.—Nom d'un bonhomme!¹⁷ Il me semble que je passe devant un magasin d'orthopédie!¹⁸

CANCALE.—Soyons sérieux. Vous voyez: voici donc la répétition exacte¹⁹ de mes jambes. Elles sont toutes les deux très bien venues.

BOTERNEAU.—La droite surtout.

CANCALE.—Je ne déteste pas la gauche.

BOTERNEAU.—Croyez-moi, la droite est meilleure. Elle est plus complète.

CANCALE.—Vous trouvez? Moi, je serais très em-

(15) chatouilleux (être chatouilleux くすぐつたがるものこと).

(16) Bah! (問投詞. 多くはつまらないことだ等の意に用ふ).

ボテルノー——粘土で型を取るのは、随分氣持が悪からうな?

カンカール——くすぐつたがりには、我慢できません。型を取りはずす時がいやです。粘土が脚にこべりついて、産毛をひきぬきますから。

ボテルノー——何ぢや! 又生へて来るわ。(アルフォンヌ. 二つの大きな箱を持つて来る. 一つは. 細長くて. もう一つは. 短かくつて四角. 床に置き. 細長い箱から. 等身大の石膏で作つた. 太腿の上から切斷された, 二つの脚を取り出す.)

カンカール (アルフォンヌ)——それを, ピアノの上に置いて. それでいい。

アルフォンヌ——肌衣の箱は, 如何します?

カンカール——肱掛椅子に, 置いて呉れ。(アルフォンヌ, 出る.)

ボテルノー——(立上り, 石膏細工に近寄つて) いやう! 丸で, 矯正外科の道具屋を, 見物するやうぢや。

カンカール——冗談はよして下さい。貴方, 私の脚そつくりの型です。二つともよくできました。

ボテルノー——右が, とりわけよいわ。

カンカール——左も, 私は好きです。

ボテルノー——いや, 右の方がよい。左のよりも完全に出来てゐる。

カンカール——さうですか? 私は, どつちがよいとは,

(17) Nom d'un bonhomme! (問投詞. 驚きを云ひ表はす).

(18) un magasin d'orthopédie (整形術の道具屋).

(19) la répétition exacte (原型そつくりの複製).

barrassé de dire celle que je préfère. C'est mes deux filles. On les aime autant l'une que l'autre.

BOTERNEAU.—Et à quoi ça vous sert-il, ces deux postiches?²⁰

CANCALE.—Vous le demandez!

BOTERNEAU.—A cor et à cris.²¹ Expliquez leur usage, faites-les manoeuvrer devant moi.

CANCALE, désignant la seconde boîte apportée par Alphonse.—Ouvrez cette boîte. (Boterneau l'ouvre.) Qu'est-ce qu'il y a dedans?

BOTERNEAU.—Des paires de bas roulées.²²

CANCALE.—Non, monsieur, ce ne sont pas des bas, ce sont des maillots de toutes couleurs et de toutes nuances.

BOTERNEAU.—Ça a dû vous coûter très cher?

CANCALE.—Très. . . Depuis le noir le plus sombre, le plus espagnol,²³ jusqu'au chair, fleur-de-pêcher.²⁴ Eh bien, dès que j'ai un bal costumé sur la planche²⁵—et je suis invariablement invité à tous ceux qui se donnent—je m'enferme avec Rosa et Josepha.

BOTERNEAU.—Pardon, que dites-vous?

CANCALE.—Mes jambes mobiles. . . ce sont les noms que je leur ai trouvés pour les désigner.

BOTERNEAU.—Très amusant.

CANCALE.—C'est Rosa la droite.

(20) postiches (義足のこと).

(21) a cor et à cris (副詞. 切りに. やかましくの意).

(22) roulées (巻いてあること動詞 rouler より形容詞に轉じたもの).

云ひ兼ねます。これは、私の二人娘で、どつちも可愛いのです。

ボテルノー——それで、この義足は、何にお使ひになる?

カンカール——何に、使ふつて御仰言るんですか!

ボテルノー——さうとも! これの使ひ方を説明して、私の前で、やつて見せて下され。

カンカール——(アルフォンスの持つて来た、もう一つの箱を、指しながら)——それを、開けて下さい。(ボテルノー、開ける)何が、ありました?

ボテルノー——靴下が澤山巻いてあるぢや。

カンカール——いえ、そりや靴下ぢやありません。それは、色々な色合、色地の、肌衣です。

ボテルノー——こりや、随分しましたろ?

カンカール——えゝ.....まつ黒い色、西班牙好みの黒から肉色、桃色まで、あります。それで、私が、假裝舞踏會に、出掛けなくつちや、ならない見込があると——私は、始終、方方から招かれますから——私は、ローザとジョゼファと、室に閉ぢ籠るんです。

ボテルノー——あの、何と云ふぢや?

カンカール——私の義足ですよ.....私は、こんな名を見付けて、呼んでるんです。

ボテルノー——そりあ面白いわ。

カンカール——右が、ローザです。

(23) espagnol (西班牙好みの黒い色).

(24) fleur-de-pêcher (桃の花のこと).

(25) j'ai un bal costumé sur la planche (假裝舞踏會に出掛ける見込があるとの意. avoir son pain sur la planche の成句と同意義. 將來何々する見込があると云ふこと).

BOTERNEAU.—Ét Josepha la gauche, alors?

CANCALE.—Il y a des probabilités.²⁶ Je m'enferme donc avec elles, et je leur mets successivement tous mes maillots.

BOTERNEAU.—Les vingt paires?

CANCALE.—Les vingt. Ça me prend deux bonnes heures.

BOTERNEAU.—Ce n'est pas encore trop.²⁷

CANCALE.—Ét puis, quand même, on ne peut pas dire que ça soit du temps perdu.

BOTERNEAU.—Ça, non.

CANCALE.—Ét alors je vois, je réfléchis, je médite. J'essaie d'une couleur, je la prends, je la quitte, je la reprends. Ah! il est bien rare que je me décide du premier coup, parce que j'ai le travail très lent. Une fois que j'ai bien vu au jour, je tire les rideaux, je fais la nuit, et j'allume, pour juger aux lumières. Presque toujours, j'obtiens alors des effets imprévus qui viennent changer mes idées, qui me font repartir sur une nouvelle piste.²⁸ Voilà le grand service que me rendent mes plâtres; ça me permet de tourner autour de mes jambes et de les examiner sous tous leurs aspects.

BOTERNEAU.—Évidemment, c'est un avantage.

CANCALE.—Inappréciable! Je sais bien que la plupart de mes amis se moquent de moi et me prennent pour un grotesque.²⁹

(26) il y a des probabilités (確からしいこと・眞實らしいこと).
(27) ce n'est pas encore trop (それでも・足りないこと・encore

ポテルノー——では、左は、ジョゼファかな?

カンカール——まあ、そんな所です。それで、私は、この二人と室に閉ぢ籠つて、肌衣を、これに、すつかりあてて見るんです。

ポテルノー——二十ともかの?

カンカール——ええ、まあ二時間たつぷりかゝります。

ポテルノー——それで、たりるかなう。

カンカール——それにいくら時間がかゝつても暇潰と違ふのですから。

ポテルノー——左様。

カンカール——そこで、私は、それを、あてがつて見て、色々考へて見ます。一つの色地を試みて、採用したり、やめたり、又再び採用したりします。一度に決めることなんか滅多にありません。それに、仕事は遅しと来るもんですから。日にあてて、よく見てから、窓掛を下ろし、室を暗くし、火を點して、光の具合を調べます。そうすると大抵は、前の考が丸で變つちまうやうな結果を得て、新機にやり直します。こんな風に、この石膏は、役に立つんです。都合のいゝ事には、脚の圍りを廻つて、四方八方から、調べられます。

ポテルノー——そりや、好都合ぢや。

カンカール——とてもいいんです! 私の友達は、大抵私をけなして、變人だつて、云つてるんです。

は。副詞。この場合には、未だ、尙ほの意。

(28) piste (足跡のこと・女性名詞)

(29) un grotesque (變人とか・奇人のこと)

BOTERNEAU.—Après? Est-ce que ça vous atteint?

CANCALE.—Non. Je suis trop haut.³⁰ Une des grandes forces de³¹ ma vie, Boterneau, c'est que je n'ai jamais craint de braver le ridicule. Je fais ce que j'ai à faire. Droit au but. Le reste, ça m'est égal.

BOTERNEAU.—Bien faire et laisser dire.³² Vous êtes dans le vrai!

CANCALE.—Ça vous ennuerait-il que nous passions ensemble en revue la série?

BOTERNEAU.—Des maillots?

CANCALE.—Oui.

BOTERNEAU.—Pas le moins du monde.³³

CANCALF.—Merci, vous êtes un camarade. Vous me direz votre pensée, pour ce Joyeuse. Je suis perplexe. J'hésite entre un gris-perle³⁴ et un citron.³⁵

BOTERNEAU.—Oh! ça ne vous semble pas un peu verjus,³⁶ le citron?

CANCALE.—Il n'est pas criard,³⁷ mon citron, Boterneau. C'est un citron très sage, très repent.³⁸

BOTERNEAU.—Moi, je vous conseillerai plutôt le gris-perle.

CANCALE.—Je n'y suis pas hostile, parbleu! Mais c'est que les femmes préfèrent le citron. Et dame! comme c'est à elles qu'il faut songer avant tout, dès

(30) je suis trop haut (すんとお高く居ること).

(31) une des grandes forces de ma vie (私の力強い所の一つは).

(32) Bien faire et laisser dire (人事を盡して、天命を待つ).

(33) Pas le moins du monde. (決して、少しもの意).

ボテルノー——それがどうした? 君は一向痛痒を感じなからう?

カンカール——ええ、私は、そんなことは超越してます。私の一大力は、滑稽をあくまで、恐れず、ものともしないところにあるのです。なすべき事をします、目的にまつしぐらに、やり通すんです。人の事なんて、構はずに。

ボテルノー——“人事をつくして、天命を待つ” 御説の通りぢや!

カンカール——これから御一緒に、すつかり當てがって御目に掛けたいんですが、御いやでせうか?

ボテルノー——肌衣をかな?

カンカール——え。

ボテルノー——いや結構ぢや。

カンカール——恐れ入ります。それでこそ、私の親友です。このジョアユラズに付いての御考を、云つて下さい。私は、眞珠色にしようか、枸櫞色にしようかつて、すつかり、迷つちまつてるんです。

ボテルノー——いや、枸櫞色は、少し、酸味がかちすぎると御考へにならんかな?

カンカール——いえ、私の枸櫞色は、あくどくないんです。そりや大人しい、淑かな色です。

ボテルノー——わしは、眞珠色を、お勧めする。

カンカーテ——私も、さうしやうとも、思つてますが。あの! 女の方は、枸櫞色の方を、好みますし。素肌を出すと

(34) un gris-perle (眞珠色).

(35) un citron (枸櫞色).

(36) un peu verjus (酸っぱいこと。名詞の形容詞に轉じたもので、こゝでは、しつこいの意).

(37) criard (形容詞、しつこい色のこと).

(38) très repent (形容詞、悔悟した、後悔したの意).

qu'on se décolète. . .³⁹

BOTERNEAU.—Vous le prendrez?

CANCALE.—J'y incline.

BOTERNEAU.—Mon cher, c'est bien imprudent, ce que vous faites là! Oh! que c'est imprudent, mon cher!

CANCALE.—Je ne vous dis pas. Mais qui ne risque rien n'a rien.⁴⁰ Et si vous saviez, sous le maillot citron, comme la jambe est craquante⁴¹ et belle! Rien n'est perdu, ni sacrifié; d'abord les parties rondes y gagnent; ça leur donne une espèce de luisant argenté;⁴² et puis les muscles, le jarret, les jolis détails du genou, prennent une importance!⁴³ . . . Vous n'avez pas idée.

BOTERNEAU.—Si! J'en ai porté un dans le temps chez la marquise de Coulanges, eh bien, ces deux jambes citron, claires et satinées,⁴⁴ on a trouvé que j'avais l'air d'un berlingot!⁴⁵ Alors, pour le duc de Joyeuse, ça ne serait peut-être pas le cas de risquer cette comparaison.

CANCALE.—Avec moi, elle est inadmissible. D'autant que,⁴⁶ —je vous en demande pardon, —mais berlingot n'avait peut-être pas été suggéré par la couleur de vos jambes.

(39) se décolète (不定法 se décoller. 頸筋を露すこと, 素肌を出すこと).

(40) qui ne risque rien n'a rien “虎穴に入らずんば、虎子を得ず.”

(41) craquante (craquer の現在分詞の形容詞に轉じて、女性になつたもの。軋り鳴る。こと).

なると、先づ第一に女方の好みを、考へねばなりませんから.....

ボテルノー——貴方は、どうしても、枸櫞色になさるか?

カンカール——さうしたいんですが。

ボテルノー——それは實に危険千万ぢや! そりや! 危険千万な!

カンカール——お尤です。ですが、虎穴に入らずんば、虎子を得ずつて云ひます。枸櫞色の肌衣をつけると、脚がともひつたつて、細部まで生きて來ます。第一丸みのあるところが映えて來ますそして丁度銀色の光澤が出て、脚の筋、臑、膝小僧の綺麗な細部までが、見逃し難くなつて來ます!.....實際ですよ。

ボテルノー——さうだらう! わしも、昔クーランス侯爵夫人の家へ、薄色の縞子光のした枸櫞色の脚で行つたことがあつたが、有平糖のやうだと云はれたわ! ぢやから、ジョアイューズ公にしても、こんな事を云はれんやうにしといた方がよからうぢやらうと思つてな。

カンカール——私が着たら、そんな事云はれるものですか。——こんな事を申して失禮ですが——有平糖と言つたのは貴方の脚の色で、思ひ付いた比較ぢやないかも知れませんよ。

(42) une espèce de luisant argenté (luisant は、男性名詞。銀色の光澤をしてること).

(43) prennent une importance (映えて來るの意).

(44) clairettes et satinées (薄色で縞子光りのしたの意).

(45) l'air d'un berlingot (有平糖のやうだの意).

(46) d'autant que. (接續詞。それに、おまけにの意).

BOTERNEAU.—Par quoi alors?

CANCALE.—Par leur forme.

BOTERNEAU.—Leur forme! Qu'est-ce que ça veut dire, ça? Qu'elles auraient été tournées, mal faites. . . Ah! mon pauvre enfant, vous oubliez que j'ai en les plus belles jambes de Paris, pendant vingt ans. Vous en conveniez vous-même tout à l'heure.

CANCALE.—Après tout, je n'en sais rien, je ne les ai pas vues.

BOTERNEAU.—À votre bal, chez les Berthevin, demandez à toutes les mères. Elles les ont vues, elles.

CANCALE.—Et vous, avez-vous vu les leurs?

BOTERNEAU.—Souvent, jeune homme. Et je vous souhaite que les jambes de leurs filles ne vous soient pas plus cruelles qu'à moi. Là-dessus, je vous quitte. Vous êtes un gentil petit garçon, mais vous venez de me manquer de respect, à moi, votre aîné; ne vous étonnez donc pas si je m'en vais.

CANCALE.—Fâché?

BOTERNEAU.—Fâché.

CANCALE.—Comme vous voudrez. Prenez-les à votre cou.⁽⁴⁷⁾ Je ne vous retiens pas. Mais là, vrai, y a une chose que vous avez, en tout cas, plus mal faite que les quilles.⁽⁴⁸⁾

BOTERNEAU.—C'est.

CANCALE.—Le caractère, mon bon.

(47) Prenez-les à votre cou. (les は. jambes のこと. それで. さつさと歸れと云ふこと. prendre ses jambes à son cou. の

ボテルノー——ぢあ何んで思ひ付いたちうのかの?

カンカール——脚の形からでせう。

ボテルノー——形ぢやつて! 貴方何を云はつしやる? 私の脚が曲つて, 不恰好だつて.....あゝ! あんたは, 私が二十年の間, 巴里切つての立派な脚をしとつたのを, 知らんのぢやな。あんた, さつき, それに同意してぢやないか?

カンカール——だつて, 私は, そんな事少しも知りませんものな, 見たことがないんですからな。

ボテルノー——ベルトヴァンの家の舞踏會に行かしやつたら, お母さん達, 残らずに聞いて見なさい。見とつたから。

カンカール——それで, 貴方は, その御婦人達の脚を, 御覽になつたですか?

ボテルノー——度々ぢや。お若いの。その娘さん達が脚を貴方に露はして呉れることを祈つとるよ。では, 御暇する。貴方はいい子ぢやが, 年長の者に向つて無禮をなすつた。私が, 失禮するのは當前ぢやらう。

カンカール——御怒りになりましたか?

ボテルノー——さやう。

カンカール——どうとも御勝手に。さつさと御歸り下さい。お止めしませんから。ですが, 貴方には, お脚よりも出来の悪いものがありますね。

ボテルノー——何ぢや?

カンカール——御老人, 御性質です。

句がある。

(48) les quilles (九柱の柱のことだが. こゝでは. 脚の意 俗語).

BOTERNEAU.—J'aime mieux ne pas répondre.
Bonsoir. (*En se retournant pour s'en aller, il accroche du coude⁴⁹ une des jambes posées sur le piano, qui tombe avec fracas.*) Ça y est. C'est Rosa!

CANCALE, *se précipitant*.—Non, mais en voilà un animal! Il me casse jambe, à présent!

BOTERNEAU.—Ça n'est pas un grand malheur, mon Dieu! Vous avez dû garder le moule.

CANCALE.—Vous-même!⁵⁰ Sortez. Filez.

(49) accroché du coude (腕をつつ掛けること. de は. 前置詞で. を以ての意. 方法を示す).

(50) vous-même! (前の句の moule が, 女性の moule にも通ず

ボテルノー——悪口三味な。御免。(歸らうとして, 躰をか
はす途端に, ピアノの上に置かれた脚に, 腕を引つけたので, 脚
は, 音をたてて, 轉り落ちる) これはしたり。ローザぢや!

カンカール(とんで来て)——なんと云ふ畜生だらう! こん
どは私の脚をこはしやがつて。

ボテルノー——大したこたないわ, ふん! あんた型を持
つとるぢやないか。

カンカール——型とは, あんたのこつた! 出て行つて下
さい, さあ。

る所から. vous-même で. la moule の意を表はして. quelle
moule のこと. 馬鹿とは貴方のことの意).

○ Chez le Coiffeur

床 屋 に て

CHEZ LE COIFFEUR

RAOUL DES PETITS-CHAMPS, 25 ans, court et gros.

PAUL DORLTON, 23 ans, court et maigre.

HONORÉ, 40 ans.

Deux heures de l'après-midi, chez un de nos éminents coiffeurs. Raoul des Petits-Champs pousse la porte du Salon; aussitôt le garçon Honoré, qui a l'habitude de le servir, se lève du siège où il était vautre¹, en criant d'une voix joyeuse: Par ici, Monsieur!

Des Petits-Champs, traînant la jambe, esquisse un pâle sourire, se laisse enlever chapeau, canne et pardessus, et tombe avec fatigue dans le fauteuil de bureau² dont Honoré a prestement retourné du côté frais le coussin de cuir. Et les pensées suivantes s'échangent:

HONORÉ.—Que faisons nous?

RAOUL.—Ce que-nous faisons. . . Ah! voilà! Nous faisons quelque chose de très grave, Honoré. (*Montrant sa coiffure.*) Nous bouleversons tout ça.

HONORÉ.—Nous touchons à ce qui existe? Nous changeons les cheveux plats avec la raie?

RAOUL.—Oui, Honoré, nous les bazardons³, les cheveux plats; je les ai assez vus. J'ai soif d'autre chose.

HONORÉ.—De quoi?

(1) vautre (不定法は, vautrer, être vautre は se vautrer と同じ意味で, 寝転がること).

床屋にて

ラウル、デ・プティーシャン、二十五才背の低い肥つた男。

ポール、ドルトン、二十三才背の低い瘠男。

オノレ、四十才。

巴里指折りの床屋の一つ。午後の二時。ラウル、デ・プティーシャン床場の戸を、押し開ける。と、お馴染みのオノレ、素早く、寝ころんで居た腰掛から、起き上つて、勢よく“いらつしやい、どうぞこちらへ”と叫ぶ。

デ・プティーシャン、脚をひきすりながら、力のない微笑を見せて、帽子、洋杖、外套を脱がせたり、取らせたりする。オノレが、手早く、皮の蒲團を、奇麗な方に裏返した肘付の椅子に、だるさうに、腰を落す。それから次の問答が取りかはされる。

オノレ——如何いたします?

ラウル——うん.....そのなんだ! 仲々容易ならぬ事をやるんだ、オノレ、(髪を指きしながら) こい奴を、すつかり、ぶちこはして呉れ。

オノレ——これをですか? 撫髪の御わけになつたのを、變へつちまふんで?

ラウル——そうだ、オノレ、撫髪は、御拂箱だ。見飽きちやつて、外のにしたいんだ。

オノレ——どれになさるんで?

(2) le fauteuil de bureau (肘掛椅子のこと).

(3) bazardons bazarder の現在, 能動詞, 賣り拂ふこと, 卑語).

RAOUL.—D'une Bressant.⁴

HONORÉ.—Oh!...

RAOUL.—Attendez avant de crier. Pas la Bressant bête et vieux jeu. Non, la Bressant tempérée.⁵

HONORÉ.—La Bressant de transition. C'est différent, alors. Les cheveux élançés⁶ et la pointe adoucie.

RAOUL.—C'est ça. Parce que, vous comprenez, à force de me regarder, j'ai réfléchi. Les cheveux lisses,⁷ un peu traînants dans le cou, comme je les avais, tout le monde a sauté⁸ là-dessus. C'est devenu banal, et puis c'est lourd, ça pèse cinq cents et ça comprime les⁹ idées. Au contraire, tout droits, c'est plus aéré,¹⁰ plus franc, plus camarade.

HONORÉ.—Oui. Le travail est difficile, mais quand on peut l'obtenir bien rond, c'est une coiffure très jolie, très tendre à l'oeil. Monsieur a la figure extrêmement large...

RAOUL.—Pas tant que ça!

HONORÉ.—Si, et les joues bombées;¹¹ aussi, je crois que cette coupe-là lui ira dans la perfection.

RAOUL.—Moi, j'en suis sûr.

HONORÉ.—Alors; nous marchons?

RAOUL.—Nous marchons.

- (4) d'une Bressant (Bressant は jean Baptiste Bressant と云ふ十九世紀中葉の佛國の俳優で、彼の外貌、風采は、衆目を惹いて居た。こゝは、Bressant のやつてた髪在意)。
- (5) tempéré (形容詞、品があつて、氣障でないこと)。
- (6) élançé (形容詞、髪を頭の後で丸く落すこと)。
- (7) lisses (形容詞、艶のあること)。
- (8) a sauté (sauter の複合過去、跳びつぐの意、là-dessus は副

ラウル——ブレサン刈さ。

オノレ——おほう!.....

ラウル——すつかり聞いてから大きな聲を出せ。ブレサンだつて、古くさい、下素なんぢやないんだ、落ち着いた型のブレサンだ。

オノレ——折衷のブレサンつて所ですな。そんなら、話が違つて來まさ。髪を、細めに長く刈り上げてまして、その先を、丸く落すんですな。

ラウル——さうさう、實はね自分の顔を熟々見て大に考へるところがあつたのだ。俺が昔やつてた襟首へ垂らした光澤つこいお下げね、あれは、皆の奴が眞似しやがつて、月並になつちまつた。それに重くて五百疋もあるんだ。考なんて出るもんか。所が、ブレサンなら、毛が、立つてるから、風通しもいゝし、さつぱりして、その上に人附がいゝだらうと云ふ譯さ。

オノレ——左様ですな。仕事は、むづかしいですがね。円く仕上げりやあ、ほんとに惚惚れしますぜ。旦那は、仲々幅つたいお顔で.....

ラウル——それほどぢやあるまい。

オノレ——いゝや。それに、下脹れでおゐでだからね、ブレサンは、よく、うつりますぜ。

ラウル——俺も、さう思つてる。

オノレ——では、お始めますかな?

ラウル——やつた。

詞、それについて、その上に、忽ちにの意、sauter は imiter と同じ意味。

- (9) comprime les idées (comprimer は、壓縮する、考を抑へつけるの意)。
- (10) aéré (風通しのよいこと、形容詞)。
- (11) bombés (膨れ上つたこと、形容詞)。

HONORE, *peignoir*,¹² *serviettes*.—N'ayez pas peur, je ne casse pas votre col. Un journal? L'*Amusant*?

RAOUL.—Non. Je ne peux pas lire pendant qu'on m'opère. Il faut que je surveille; c'est plus fort que moi.¹³

HONORE.—Monsieur a bien raison. Nous autres, nous avons besoin du client comme le client a besoin de nous. Il n'y a que comme ça, en côtoyant de l'œil le travail, que le client peut se rendre compte: il assiste à la coupe, il la voit venir. De ce moment-ci, tenez, eh bien, c'est malheureux, on ne peut rien faire de propre.¹⁴

RAOUL.—Pourquoi ça?

HONORE.—Rapport à Panama. Dès que le client est dans nos mains, il faut qu'il dévore¹⁵ le journal; alors il bouge et nous le ratons.¹⁶ Oui, du grand au petit, voyez-vous, tous ces scandales-là font bien du tort. Violette ou muguet bois?

RAOUL.—Violette. Vous me passerez aussi sur la figure. . . c'est agréable.

HONORE.—N'y a rien qui réveille le cerveau comme ça! Pour les gens qui pensent, qui ont une idée fixe, un peu de violette au visage, du coup les voilà ranimés; plus les mêmes! Monsieur devrait en prendre un flacon pour chez lui?

RAOUL.—Je ne dis pas non.

(12) *peignoir* (打掛. 上被の意. 男性名詞.)

(13) *c'est plus fort que moi* (自分の力でどうにもならない事. そうしなくつちや居られないの意.)

オノレ——(上被をかけ, 小布を巻きながら.)——旦那, 大丈夫, からは, しわをよせませんから。新聞をお上げしませうか? 面白草紙でも?

ラウル——やめやう。やつて貰つてるうちは, 新聞なんて読めるもんか。俺は, 見張をしなくつちやならない, これが俺の癖なんだから。

オノレ——お尤ですな。わつち共はね, 商賣ですから仕事に身を入れますがねお客の方だつて身を入れて下さらなけりや張合がありやしません, お客が, ちつと, わつちの仕事に御注目になつて, 髪の刈こみ仕上げを御覧になつて始めて様子が分ると云つたもんでさ, つまり刈込みに參與して言はゞ其の結果の表はれるのを見て居るやうなものでさ。旦那この節ぢや, なさけないぢやありませんか, 満足な仕事は何一つ出来やしません。

ラウル——それはまたなぜだ?

オノレ——パナマ事件つて奴の所爲でさ。いざ仕事にかゝらうとすると, お客は, きまつて新聞の夢中讀でさ。さうして身軀を動かすんで刈り損こなうんですよ。こんな醜聞は大小を問はず, ひどい害を及ぼすもんです。え, ヴイオレットにしますか, それともミュゲに?

ラウル——ヴィオレットにして呉れ, 顔にもかけて呉れ.....いゝ氣持だから。

オノレ——これ程, 頭をはつきりさせるものはありやしません, 頭を御使ひになる方や一念にこりかたまつた方の顔に, 少し振りかけて御覧じろ, 忽ちに元氣回復, 人間が變つちまいます! 旦那も是非一瓶お求めになつては如何です。

ラウル——そうしてもいゝが。

(14) *de propre* (形容詞. *convenable* の意.)

(15) *dévore* (*dévoré* の現在. 食り食ふこと. 能動詞.)

(16) *ratons* (*rater* 失敗する. 仕損ずるの意.)

HONORÉ.—Monsieur ne devrait pas tarder. La violette de la maison est très courue.¹⁷ Justement, il nous en reste encore de la bien belle. Combien monsieur veut-il que je lui en fasse envoyer de bouteilles?

RAOUL.—Deux.

HONORÉ.—De la clarifiée?¹⁸

RAOUL.—Bien entendu. Est-ce que vous avez toujours de ce petit *bouquet des Alpes* que vous m'avez donné le mois dernier?

HONORÉ.—Toujours. Deux flacons aussi?

RAOUL.—Oui. J'en ai été ravi.

HONORÉ.—J'avais prévenu monsieur qu'on lui en ferait des compliments. C'est très recherché, le bouquet, parce que c'est modeste; c'est un parfum qui n'a pas d'odeur. Là, voilà un côté qui va être bientôt fini.

RAOUL.—En avez-vous encore pour longtemps?

HONORÉ.—Une bonne demi-heure.

RAOUL.—C'est long.

HONORÉ.—On voit bien que ça n'est pas monsieur qui tient les ciseaux. Pour réussir, il faut le temps. Paris ne s'est pas fait en un jour.

RAOUL.—Soit, mais dépêchez-vous.

HONORÉ.—Monsieur préfère-t-il que je le saccage?¹⁹

RAOUL.—Non.

HONORÉ.—En ce cas, que monsieur soit patient,

(17) courue (形容詞. 流行する. はやること).

(18) de la clarifiée (うすくしたものの意).

オノレ——善は急げですぜ。内のヴァイオレットの御愛用は、とても、流行つてますぜ。丁度ね、未だ極く上等のが残つてありやす。幾瓶上げやせうな?

ラウル——二瓶呉れ。

オノレ——うすいのですか?

ラウル——そうだと。おい、先月貰つたブケ、デ、ザアルプは、まだあるかい?

オノレ——ありますとも。二瓶ですか、こいつも?

ラウル——さやう。非常によかつたよ。

オノレ——きつと皆さんからほめられるつて、わつちは旦那にそう申上げといたでせう。こい奴は、とても、皆様の御ひびきでさ、第一品がありまき、それに、匂も、ひつこくなしと。とと、半分すみませ。

ラウル——おい、未だ仲々かい?

オノレ——ざつと、半時たつぷりかゝりますな。

ラウル——長いな。

オノレ——だが、旦那、鉄を、いぢくるなあ、わつちですぜ。大器は晩成。巴里は、一日にして成らずつてね。

ラウル——そうだがな。急いで呉れ。

オノレ——旦那。むらにかつてもよろしいですかい。

ラウル——いけないよ。

オノレ——そんなら、辛抱してお呉んなせい、一寸眠つ

(19) saccage (能動詞. saccager, 取り散らす. 亂雑にする, まぜかへすの意).

qu'il fasse un petit somme. . .²⁰ on dort.

RAOUL.—Je n'ai pas sommeil.

HONORÉ.—Que monsieur ferme les yeux, ça viendra tout doucement, sans qu'il s'en aperçoive.

RAOUL.—Je ne peux pas, vous me parlez.

HONORÉ.—Monsieur n'a qu'à me dire que je l'ennuie, je me tairai.

RAOUL.—Non, vous pouvez causer, ça m'est égal; je ne vous écoute pas.

HONORÉ.—Monsieur a peut-être tort. Pour être un perruquier,²¹ on n'est pas le dernier venu.²² Car, enfin, monsieur, une supposition qu'en 93, au moment où la noblesse. . .

RAOUL.—Mais ne parlez donc pas tant; ça vous occupe, vous pensez à ce que vous dites, et vous n'êtes plus à ma tête.

HONORÉ.—Demande pardon, monsieur, demande bien pardon; je peux très bien mener les deux choses de front.²³

RAOUL.—Est-ce qu'ils ne sont pas un peu courts sur les côtés?

HONORÉ.—Non, monsieur. Ils sont comme ils doivent. Attendez que tout soit terminé. Alors, seulement, vous ferez la critique.

RAOUL.—Et puis, il sera trop tard. J'aurai une sale

(20) fasse un petit somme (faire un petit somme まどろむ. とろりとすること).

(21) perruquier (理髪師のこと).

(22) on n'est pas le dernier venu (dernier は、最下等とか、最

て御覽なせい.....お眠りになつたらよろしいでせう。

ラウル——睡くなんかない。

オノレ——旦那、眼をつぶつてて御覽なせい、その内には、自然と睡くなつて來ますから。

ラウル——睡れないよ。お前が話をしてるんだもの。

オノレ——旦那、うるさいとおつしやれば、だまりますぜ。

ラウル——いや、しやべるのは、お前の勝手さ、俺は、聞いてないから。

オノレ——旦那そりあいけない。床屋だつて、さう見下げ果てたもんぢやない。え、旦那、假りに千七百九三年貴族が.....

ラウル——おいおい。さうしやべるなよ。喋るのに氣を取られて、俺の頭は、留守にしてるぢやないか。

オノレ——いや、旦那失禮ですが。わつちは口八丁手八丁ですから大丈夫。

ラウル——少し兩側が、短かかないか?

オノレ——どう致しまして旦那。恰好ですよ。仕上げまで辛抱々々。ね、その上で、御叱言としませう。

ラウル——だが、仕上がったでは、遅いぢやないか、不

下位の意、全文の意は、最も下等な人間ではないと云ふこと。

(23) mener les deux choses de front (二つの仕事を同時に片附けること).

23 片附けること

pomme,²⁴ et il faudra que je sorte avec.

HONORÉ.—Monsieur sera très bien, aussi bien qu'il peut être. Tenez, regardez dans la glace, toute cette partie-là. . . déjà, comme ça se fond, comme les tour-nants sont beaux. . . Et le devant! C'est pas pour dire, mais ce qu'elle s'annonce, ma coupe, ce qu'elle promet! . . .

RAOUL.—Eh bien! moi, je ne suis pas si tranquille que vous, et j'ai hâte d'être arrivé. Pressez-vous un peu, allons; vous êtes là, vous bavez²⁵ cinq minutes sur chaque cheveu, vous fignolez²⁶. . . ça dure quatre ans avec vous, une taille. C'est embêtant, vous savez?

HONORÉ.—Oui! Et vous croyez que ça m'influence? Ah! bien, je serais joli si je vous écoutais, et si je vou-expédiais au trot²⁷ comme vous le voulez. Qu'est-ce qui arriverait? Je vais vous le dire. C'est que ce soir, de-main, au bal, à l'Opéra, chez ces dames, dès que vous retireriez votre chapeau, les gens, à part, dans les coins, diraient entre eux:

—Ah ça! qui que c'est, diable! qui peut bien couper les cheveux à monsieur des Petits-Champs?

Alors, une chose, que dans l'assistance quelqu'un d'informé²⁸ se lèverait pour répondre:

„ —C'est Honoré, Honoré de chez Dubois.

„ —Comment! c'est Honoré, qu'on dirait en se

(24) une sale pomme (pomme は林檎の實のことであるか。こゝでは、汚い頭いのこと)。
(25) bavez (baver. 涎を垂らす。汗を垂らすこと)。
(26) fignolez (fignoler は、綿密に仕上げる。念を入れてす

恰好な頭で、外へ出なくつちやならない。

オノレ——旦那、素敵に、出来ませぬこの上もなく。まあ、鏡を御覧じろ、こゝの所全體.....角の落しのやんわりと、釣合の取れて.....それから、前を! 自慢するぢやないが。わつちの刈方の仕上げを見て貰い度いね!.....

ラウル——おい、俺は、落ち着いちゃ居られないんだ。早く仕上げで貰いたいんだ。少し急いでやつて呉れ。さあ。一本の毛に、五分も看取れて、ねちいゝやられたんぢや.....頭を刈り込むとなると、四年もかゝるぢやないか。おい退屈しちまふぜ?

オノレ——さうでせうな! だが變んなことを云はれて避易するとお考へですかえ! 旦那の云ふことを聞いてゐて旦那の云ふなりに、疾足とやらかして済たらそれこそとんでもない。どんな事が起ることだらう? 云つて見ませうか。今晚か、明日か、舞踏會か、お芝居か、御婦人の御宅に行きなすつてさ、旦那が、帽子を御脱ぎになると、忽ち、御列席の方方は、隅々で、こそこそと。“おやおや! 誰だいあれや、! デ、ブテイシヤンさんの髪を刈つた者は?” と云つた譯。すると、御列席の中で、委細御存知のお方が、一言なかるべからずと。“ええ、オノレです、デュボアの所のオノレですと仰言る。皆様は、えい! オノレだすつて、ふふん! こいつ

ること)。
(27) expédiais au trot (大意ぎで、片附けること)。
(28) quelqu'un d'informé (quelqu'un qui en est informé の意、見聞して知つて居る人のこと)。

tordant.²⁹ Ah! ben! vrai! Ah! ben, non, mais là, vrai!

„ Et c'est moi pour le coup, qui serais risible.³⁰ Je veux pas de ça.

RAOUL.—Arrêtez. Arrêtez.

HONORÉ.—Je vous ai fait mal?

RAOUL.—Non. J'ai une crampe.³¹

HONORÉ.—Où ça?

RAOUL.—A la jambe, parbleu. C'est pas dans l'oeil.

HONORÉ.—Mauvais, ça. Moi ça me prend des fois quand je taille du gros cheveu, du cheveu dur qui ébrèche³² le ciseau. Eh bien, souffrez un petit peu, en attendant que ça se passe.

A ce moment, un nouveau client s'approche, un grand jeune, homme pâle, mince, d'aspect grave et nul,³³ et qui ne doit pas rire souvent.

RAOUL, qui l'aperçoit.—Tiens, Dorloton? Bonjour.

DORLOTON.—. . . jour. (*Il le voit tendre la jambe en faisant des efforts*) Quoi t'as?

HONORÉ.—Une crampe. Bonjour, monsieur Dorloton.

DORLOTON.—. . . jour. (*A Honoré.*) Longtemps?

HONORÉ.—Une petite demi-heure.

DORLOTON, à Honoré, en montrant Raoul.—Quoi vous lui faites donc? L'empaillez!³⁴

(29) en se tordant (se tordre の現在分詞. 腹をかゝへて笑ふことの意 en は. 前置詞で. 状態を示して居る.)

(30) risible (形容詞. 可笑しいの意).

あひどい! 實以てひどい! と腹をかゝへて御笑ひになる。そうなるどころだあ, “私が, 笑はれてしまひませ。私はそいつは眞平です。

ラウル——止めて呉れ。止めて呉れ。

オノレ——お痛いことでも致しましたか?

ラウル——いや, こくらがへりが起つた。

オノレ——どこです。え?

ラウル——おい, 眼ぢやないよ, 脚だ。分つてらあね。

オノレ——いけませんな, それは。わつちなんか, 鋏の刃のこぼれるやうな太い髪を刈込む時には, 時々それを起します。まあ, 少々我慢なさい其の内には痛みがとれませ。

丁度この時, 一人の客が側近く来た; 蒼白い顔をして, 瘠せた, しかつめらしい, 平凡なそして滅多に笑ひそうにもない若い男である。

ラウル (眼ざとく)——や, ドルロトンか? やあ。

ドルロトン——や.....(ラウルが, 一生懸命に, 脚を伸ばしてるのを見て) 貴様どうしたんだ?

オノレ——こくらがへりです。いらつしやい。ドルロトンの旦那。

ドルロトン——や.....(オノレに) 仲々かい?

オノレ——ざつと, 小半時ですな。

ドルロトン (オノレに, ラウルを指示しながら)——お前, 何をやつてるんだ? 剝製にでもするのか?

(31) crampe (痙攣. こぶらがへりの意).

(32) ébrèche (ébrécher 能動詞 刃を缺くの意).

(33) nul (形容詞. 無能の. 平凡なの意).

(34) l'empaillez (empailler 藁を填めるとか. 剝製にする意).

HONORÉ.—Nous avons encore une friction, et le fer.
Tout bonnement.³⁵

RAOUL, à Dorloton.—Laisse Honoré me finir à son
aise, hein? et ne viens pas nous troubler.

HONORÉ.—Ce ne sera pas long. Asseyez-vous.

RAOUL.—Assois-toi.

DORLOTON.—Puisqu'il faut. (*Il s'assoit. A Raoul,
dont il remarque la tête.*) Comment... quoi? tu modi-
fies ta gueule?³⁶

RAOUL.—Oui, je n'étais pas fou des cheveux plats,
et ça m'a pris de les avoir tout droits, comme toi.

HONORÉ, souriant à Dorloton.—C'est vrai, c'est aussi
la coiffure de monsieur.

DORLOTON.—Jusqu'à présent. Mais à partir
d'aujourd'hui, plus. Ah non!

RAOUL.—Tu veux changer aussi?

DORLOTON.—Un peu! Oh! ne fais pas la bête.
C'est assommant.³⁷ Dès que j'adopte une coupe, tu me
la chipes.³⁸

RAOUL.—Tu es épatant, la Bressant est à tout le
monde.

DORLOTON.—Pas entre amis. Tu sais d'ailleurs ce
que je t'ai dit vingt fois: "Je ne veux pas avoir la
même coupe que toi, ou alors nous ne sortirons pas en-
semble." En janvier, j'avais les cheveux plats, raie sur

(35) tout bonnement (bonnement は、副詞、正直に、素直にの
意。こゝでは、軽い意味で、これだけの意)。

(36) gueule (鳥獸の口を云ふ、又人間の口を云ふ、こゝでは、
casser la gueule, avoir une bonne gueule に於ける場合)

オノレ——いえ、これから、頭をまつさあじしまして、鏡
をあてますだけで。

ラウル (ドルロトンに)——おい、オノレに構ふのはよ
して呉れ? 邪魔しになんか来るなよ。

オノレ——ちきで御座います。御腰掛になつて下さい。

ラウル——掛ける。

ドルロトン——では、掛けるかな。(ドルロトン腰かける。
ラウルの頭に気がついて、ラウルに) いや.....どうし
た? 貴様頭の御作りがへか?

ラウル——俺は、元から撫髪が余り好きぢやなかつた
んだ。それで貴様のやうに、髪を真直ぐにたてたくなつた
んだ。

オノレ (ドルロトンに、微笑を見せながら)——なる程。且
那と同じですな。

ドルロトン——今まではさ。だが今日限り、もうやめだ。
うん止めだとも!

ラウル——貴様も、髪を換へたいのか?

ドルロトン——さうとも! おい! 馬鹿な真似をするな。
いやになつちまうな。俺がある刈り方をやると、貴様、すぐ
と横取するぢやないか。

ラウル——突飛な事を云ふ奴だ。ブレサンは、貴様の
獨占ぢやあるまい。

ドルロトン——友達の間は別だ。貴様、俺が何度も言
つたことまさか忘れやしまいな。“俺と貴様は、同じ刈
り方は御免だ。そんなことがあつたら、一緒には外出

と同じで、頭のこと、卑語)。

(37) assommant (形容詞、うるさくて堪らぬ、やり切れないの意)。

(38) tu me la chipes (la は、une coupe を意味する、chipes の
不定法は chiper である、盗むの意、卑語、chipper quelque
chose à quelqu'un の句がある)。

le côté droit;³⁹ j'étais très bien, très tranquille; aussitôt, tu me prends cette coiffure-là; en février, j'ai reporté ma raie à gauche, toi aussi; alors je me suis résigné à une Bressant. Je croyais que tu allais me fiche la paix;⁴⁰ pas du tout, tu te fais encore arranger comme moi. Pourquoi? je te le demande. Pourquoi ne gardes-tu pas les cheveux plats? Je te les avais abandonnés, ils étaient à toi.

RAOUL.—C'est ignoble. Ça me changeait Ça me donnait l'air d'un crétin.⁴¹

DORLOTON.—Laisse donc. On te reconnaissait tout de même. C'est ignoble, parce que tu ne sais pas les porter: eh bien, moi je les reprends, là! Quand ça ne serait que pour t'embêter. (*A Honoré.*) Honoré, dès que vous aurez frisé cet animal-là (*montrant sa tête*) vous ne démolirez⁴² toute ma Bressant.

HONORÉ.—Vraiment? Monsieur, vous voulez. . .

DORLOTON.—Et vous me coifferez plat, tout plat, avec la raie à droite. (*Se reprenant.*) Non, pas à droite, il l'a eue.

HONORÉ.—A gauche alors?

RAOUL, *qui ricane.*—Je l'ai eue aussi. Faut pourtant la mettre quelque part?

DORLOTON.—Toi, tu vas recevoir une gifle.⁴³ (*A Honoré.*) Par derrière, la raie, Honoré, par derrière.

- (39) raie sur le côté droit (raie は女性名詞. 髪の分目のこと).
(40) fiche la paix (不定法は. *ficher la paix. laisser tranquille* の意. 邪魔しないこと).
(41) un crétin (癡人. 阿呆. 佻儻症に罹つた人).

はしないつて”。え。一月に俺が、撫髪を右で分けて、納つてると貴様も、早速ぢやないか。二月に左でわけかへたら又だ。そこで、俺は、仕方なしにブレサンにきめたんだ。貴様は、もう俺に厄介かけないことゝ思つて居たら、どうして々々々々又、俺のやうな刈り方をする! おい、どうした譯なんだ? 訊きたいな。何故貴様は、撫髪にして置かないんだ? こいつは、貴様にやつたんだから、貴様の物だつたんぢやないか。

ラウル——これは、下等だ。俺の人相を變へて、丸で、阿呆のやうにしちまつたんだ。

ドルロトン——構はないぢやないか。誰が見たつて、貴様つてことは解つたぢやないか。下等だなんてそれは、貴様が、撫髪のうつし具合を、知らないからなんだ。それぢや俺は又撫髪にする。貴様に對する面當てにやつてやる。(オノレに) オノレ、こん畜生に、鑿をあてたら(自分の頭を指示しながら)俺のブレサンを、ぶつこはして呉れ。

オノレ——ほんとですか? 旦那、どう……………。

ドルロトン——右で分けて、ごく平たい撫髪にして呉れ(言ひ直して) いや、右ぢやいかん、あいつがしてたから。

オノレ——それでは、左で?

ラウル——(からかひ半分に) 俺も左で分けてたことがあつたぜ。だがどつかで分けなきやならないな?

ドルロトン——貴様ひばたくぞ、(オノレに) 後だ、オノレ、後から分けて呉れ。

- (42) démolirez (不定法は. *démolir* 崩す. 覆すの意).
(43) tu vas recevoir une gifle (*recevoir une gifle* 横面を張り飛ばされることの意. *vas-* は *aller* の現在第二人称. 今に. 張り飛ばされるぞと云ふ意).

RAOUL.—Tu seras gentil!⁴¹

DORLOTON.—Autant que toi, et sans douleur. N'est-ce pas que ça me va très bien, Honoré, les cheveux plats?

HONORÉ.—Oui. Le travail est difficile, mais quand on peut l'obtenir bien plat, bien lisse, c'est une coiffure très jolie, très tendre à l'oeil. Monsieur a la figure extrêmement étroite. . .

DORLOTON.—Pas tant que ça!

HONORÉ.—Si, et presque pas de joues. . .

DORLOTON.—Moi?

RAOUL.—Puisqu'il te le dit, c'est que ça est!

HONORÉ.—Aussi j'ai toujours pensé que cette coupe-là était son affaire.

DORLOTON, à Raoul.—Et toi, écoute bien. C'est la dernière fois que je m'astreins à me chambarder⁴⁵ la tête pour ton bon plaisir. Si tu as jamais le malheur de lâcher ta Bressant et de marcher de nouveau sur mes brisées,⁴⁶ aussi vrai que tu me vois en chair et en os. . .⁴⁷

RAOUL.—Surtout en os.

DORLOTON.—Et toi en chair, je te lâche, je ne te salue plus.

RAOUL.—Voilà les amis.

DORLOTON.—Suffit. (*A Honoré et à Raoul.*) A pré-

- (41) tu seras gentil! (gentil は、形容詞で、心の優しいとか、しほらしいとかの意、こゝでは皮肉に云つてゐる)。
(45) chambarder (ば、俗語で、ひつくからかへすとか顛覆させるの意)。

ラウル——定めし可愛らしくなるだらうよ!

ドルロトン——貴様にや劣らないぞ。而かも何の苦もなくだ。な、オノレ、俺には撫髪がよく似合ふだらう?

オノレ——左様です。細工は、粒々だが、すつぱり撫でて、油をつけりや、とてもよくつてほれほれしますぜ。旦那は顔がとても長いし……………。

ドルロトン——それ程ぢやあるまい!

オノレ——いやさうです、それにまるで頬がないし……

ドルロトン——俺がか?

ラウル——オノレが云つてるんだから、間違いないさ!

オノレ——ですから、わつちやこの髪があなたに持つてこいと思つてました。

ドルロトン——(ラウルに) 貴様、よく聞いとけ。貴様の道楽に御附合の頭の造作換は、これが最後だ。貴様が、ブレサンをやめて、又俺の眞似をしやうとか、つたら、それこそこの俺に骨あり肉ある……………

ラウル——貴様骨ばかりぢやないか。

ドルロトン——貴様は肉ばかりだ。絶交だ。もう他人だ。

ラウル——これで友達だとさ。

ドルロトン——だまれ。(オノレラウルに) それでは、御

- (46) marcher sur mes brisées (marcher sur les brisées de quelqu'un. 人と競争するとか、取つて代らうとすること)。
(47) tu me vois en chair et en os (c'est moi en chair et en os の意で、己れ自身の意、こゝでは、原語の意味をも表はして居る)。

sent, développez-vous dans les grands prix, mes chers enfants, parce que j'ai beau ne pas être Louis XIV,⁴⁸ je trouve que je commence à attendre!

(48) j'ai beau ne pas être Louis XIV (は假令 Louis XIV ではなくとも意. Louis XIV が. 或る時馬車が. 時間きつちり

兩人, せいぜい髪の御手入をしつかり早くやつて呉れ。いくら俺が, ルイ十四世ぢやないからつて。待ち切れなくなつてきた!

にきたのでもう少しで遅れる處だと云つた逸話がある。こゝでは、これを引用してしやれて言つたもの。

9

Canne et Parapluie

洋 杖 と 雨 傘

CANNE ET PARAPLUIE

PIERRE, 20 ans.

PAUL, 19 ans.

Chez Pierre, qui occupe un petit appartement contigu à celui de ses parents, avenue des Champs-Élysées. Pierre achève de s'habiller, il est prêt à sortir. Plus rien ne lui manque Paul, qui a assisté à sa longue toilette, laisse éclater sa joie que tout soit terminé.

PAUL.—Ouf! ça n'est pas dommage!

PIERRE, *immobile, debout au milieu de l'antichambre.*—
Ne t'emballe¹ pas. Maintenant, fini de rire. A nous les affaires d'État!

PAUL.—A quoi penses-tu?

PIERRE.—C'est très grave.

PAUL.—Tu peux toujours me le dire.

PIERRE.—Je pense—je suis comme César, moi, tu sais?—je pense à plusieurs choses à la fois.

PAUL.—Énumère.

PIERRE.—Primo. Pleuvra-t-il? Fera-t-il beau temps?

PAUL.—Ce n'est pas à moi qu'il faut demander ça, c'est à l'abbé Fortin.²

PIERRE.—Dois-je prendre une canne ou un parapluie?

PAUL.—Je te dis: Demande à cet abbé, il est infailible³. S'il te dit: "Il pleuvra!" Tu peux y aller hardiment, c'est qu'il fera beau temps et tu prends ta

(1) ne t'emballe pas (再歸動詞 s'emballer の二人稱現在否定形. 馬が荒れて飛び出す. 夢中になるの意).

洋杖と雨傘

ビエール, 二十才.

ポール, 十九才.

シャンゼリゼー大通り. ビエールの家. ビエールは. 彼の両親のアパルトマンに續いた手狭な一室に住んで居るのである. ビエールは服を着て終ひ. 仕度万端整ひ. 外出の準備成る. ビエールの手間のかゝつた身装ひに. 居合せて居たポール, これで用事もすつかり済むだと云ふので. 喜悅満面.

ポール——やれやれ! これで結構!

ビエール——(ちつと. 控室の眞中につゝたつて)——さう夢中になるな. 冗談ぢやないこれからが. 國家の大事だ.

ポール——何を考へてるんだ?

ビエール——とても重大事なのだ.

ポール——云つたつていゝぢやないか.

ビエール——俺は,——セザールのやうだ, な?——一時に色々な事を御考になるのさ.

ポール——と云ふのは.

ビエール——第一, 雨か? 天氣か?

ポール——俺に聞くこつぢやないぢやないか. フォルタン坊主に聞くこつた.

ビエール——洋傘にしようか? 雨杖にしようか?

ポール——坊主に聞けつて云ふのに. そい奴なら間違な

(2) Fortin (は. 十八世紀初葉の物理學者. 水銀晴雨計を發明した人. この晴雨計のこともこの人の名で呼ばれて居る).

(3) infailible (形容詞. 確實とか. 的確とか云ふ意).

canne la plus souriante.⁴ Si, au contraire, il te dit: “ Mon petit monsieur, nous aurons du soleil ”, c’est qu’alors il pleuvra à seaux, et tu saisis le joyeux⁵ pépin⁶. As-tu compris?

PIERRE.—Oui. Mais je ne l’ai pas sous la main, cet abbé; par conséquent ce que tu me dis ou rien, c’est kif-kif.⁷ Et puis, secundo, je pense: à supposer que je prenne une canne, quelle canne faut-il prendre? A supposer que ce soit un parapluie, quel parapluie?

PAUL.—Fais ce que tu voudras. Tu es d’un long!⁸ Il faut vraiment avoir du temps à perdre pour te tenir compagnie.⁹

PIERRE.—Le temps te paraît long parce que tu me tiens compagnie animalement, comme une brute, rien que de corps. Tu ne cherches pas à pénétrer dans ma pensée, à te l’assimiler.

PAUL.—Je ne peux pas t’écouter comme si t’étais Bossuet¹⁰

PIERRE.—Non. Mais sois à moi avec ton cerveau, sois attentif. Eh bien, ce que je te disais à la minute est très compliqué, beaucoup plus que tu ne le crois. En effet, quand je m’interroge comme tu me vois le faire, il ne s’agit pas pour moi de me demander si c’est telle ou telle canne entre toutes mes cannes, ou tel parapluie

- (4) souriante (形容詞. 名詞 canne を受けて女性になる. 動詞 sourire の現在分詞より轉じたもの. こゝでは. canne を擬人して更に canne を持つ人の氣持を云つてゐる).
 (5) joyeux (形容詞. 陽氣なとか. 賑かなと云ふ意. こゝでは. avec joie の意).
 (6) pépin (男性名詞. 雨傘を意味する隠語).

しだ。“雨でせう”と云つたら、躊躇は無用だ。上天氣になる。勢よく洋杖を持つてくさ。そうぢやなくつて“貴方、晴れませうよ”と云つたら、どしや降になる。景氣よく雨傘を持つて行け。解つたかい。

ビエール——ああ。だが、その坊主は、手近に居ないとすりあ、君の言ふことは、役に立たないのも同じだ。それから、第二に、洋杖を持つて行くとすると、どれにするか? 雨傘なら、どの雨傘にしたものか?

ポール——どうとも勝手にしろ。愚圖野郎! お前に相手をしてると、ほんとに日が暮れつちまうよ。

ビエール——そうだらうとも。畜生見たいに、身體ばかりで、交際つてゐるからだ。俺の身になつて、俺の氣持を汲まうとしないからだ。

ポール——ボスユエ様ぢやあるまいし。貴様の云ふことなんか後生大事に聽けるもんか。

ビエール——そりや分つとる。貴様が君の頭で聽いてろ、注意してゐろ。いゝか、俺の今云つたことは、貴様には思ひ及ばない程とても難かしい事なんだ。今貴様が見たやうに俺が獨り思案する時にはそれは、俺の洋杖の中からこれこれの洋杖、俺の雨傘からこれこれの雨傘を持つて行かうか、

- (7) c’est kif-kif (同じ事だと云ふ意. 俗語).
 (8) tu es d’un long (のろまな人. ぐづぐづする人の意. long と云ふ形容詞から名詞に轉じたもの).
 (9) te tenir compagnie (tenir compagnie à quelqu’un [i. 誰々の相手をするの意. te [i à toi の意).
 (10) Bossuet (十七世紀の佛國に於ける. 有名な僧侶で. 辨舌に長けて居た人. 彼の著述は. 佛國文學史上. 有名なもの).

entre tous mes parapluies que je vais prendre. Non, cela ne souffrirait aucune difficulté, c'est très simple; ce dont il s'agit, c'est de savoir si je prendrai au hasard¹¹ dans le tas, ou bien si je dépareillerai¹² un ménage. Y es-tu, à présent?

PAUL.—Non. Je te demande pardon. Qu'est-ce que c'est que ce ménage que tu as peur de dépareiller?

PIERRE.—Mais rappelle tes souvenirs, sacré nom!¹³ Rappelle-les!

PAUL.—Je m'égosille:¹⁴ ils ne viennent pas.

PIERRE.—C'est bien la peine que je me sois donné un mal de chien,¹⁵ l'année dernière, à t'expliquer tout le mécanisme de mes cannes et de mes parapluies!

PAUL.—Ah! oui. Maintenant, ça me revient vaguement.

PIERRE.—Je t'ai expliqué que j'avais un escadron volant¹⁶ de cannes de toutes sortes, une cinquantaine environ, et puis un petit peloton¹⁷ de parapluies.

PAUL.—Volants aussi?

PIERRE.—Volants.

PAUL.—Combien?

PIERRE.—Une douzaine?

- (11) prendrai au hasard (どれと目當をつけないで、手當り次第に取り出す意).
- (12) dépareillerai (dépreiller の未然形、能動詞、互に似合つてゐる物の一つを、取り離すことの意、こゝでは、次に来る名詞の un ménage を受けて、似合物の夫婦の仲を割く意になる).
- (13) sacré nom! (仕方のない奴の意).

どうかを訊ねる積りからぢやないんだ。そんな事なら何で難かしい事があるだらう。造作のないことさ。俺の訊ねる事は、澤山ある洋杖と雨傘の中から、手當り次第に持つて行かうかそれともいつそのこと、夫婦を引き離して持つて行かうかつて云ふことなのだ。解つたか、今度は?

ポール——解らないな。御免よ。君が引き離すのを怖がつてる夫婦つて、何の事さ?

ピエール——おい想ひ出して見ろ、え! 想ひ出して見ろよ!

ポール——幾ら咽喉を開けても出て来ない。

ピエール——去年さ、俺の洋杖と雨傘の因縁を、すっかり教へてやるのに、あんなに苦しい思ひをするんぢやなかつた!

ポール——あゝ! さうさう。そんな事があつた。

ピエール——俺が、ざつと五十騎の色んな形の洋杖遊撃騎兵一中隊と、それから雨傘の一小隊を持つてると、云つたぢやないか。

ポール——それも遊撃騎兵なのかい?

ピエール——うん。

ポール——どの位だつて?

ピエール——十二騎位だろ?

- (14) je m'égosille (s'égosiller の現在形、再歸動詞、大聲で、長い間咽喉が疲れる迄叫ぶこと).
- (15) un mal de chien (de chien は、détestable の意、je me sois donné は se donner の接續法の現在形、se donner un mal de chien は、熟語であつて、非常に嫌な思をする、非常に骨を折るの意).
- (16) un escadron volant (遊撃騎兵一中隊の意).
- (17) un peloton (騎兵一小隊の意).

PAUL.—Seulement?

PIERRE.—Oui. Je n'ai pas voulu m'encombrer.¹⁸ Et puis alors, en dehors de ça, je t'ai dit tout au long¹⁹ que j'avais des ménages.

PAUL.—Ah! oui!

PIERRE.—J'appelle un ménage une canne et un parapluie assortis,²⁰ qui vont ensemble, qui ont même manche, même pommeau,²¹ même bois. Un ménage. Eh bien! j'ai douze ménages. Naturellement les ménages sont beaucoup plus jolis; plus riches que les volants! Seulement, je ne saurais pas te dire pourquoi ça me cause une petite impression pénible de prendre une canne ou un parapluie qui fait partie d'un ménage.

PAUL.—Cependant, il faut bien! Tu ne peux jamais prendre à la fois le ménage complet, la canne et le parapluie?

PIERRE.—Si.

PAUL.—Mais alors on te regarde dans la rue. T'as l'air d'un marchand.

PIERRE.—Tu n'attends pas la fin de ma phrase. Je prends toujours le ménage en voiture!

PAUL.—Fermée?

PIERRE.—Fermée ou ouverte. J'ai des anneaux pour les passer. De cette façon, je les vois tous les deux.

PAUL.—Elle et lui.

PIERRE.—Je suis content. Il peut tomber ce qu'il

(18) m'encombrer (s'encombrer (1. 混雑するの意).

(19) tout au long (十分に. 詳しく. の意. 接續副詞).

ポール——それ丈なのか?

ビエール——うん。余り澤山脊負ひ込むのはいやだつたからな。未だその外に澤山の夫婦を持つて居るつて詳しく話しといたぢやないか。

ポール——あゝ! さうさう!

ビエール——俺は、同じ木、同じ柄、同じ柄頭の似合ひの雨傘と洋杖を、夫婦と云つてゐるんだ。所で! それは十二組あるのさ。夫婦組は、ばらより奇麗だし、飾の多いことは、勿論さ! たゞね、夫婦組の洋杖なり、雨傘なりを離して持つて出るのが、どうも氣になつて仕方がないのだ。

ポール——然し、どつちか持つて出なけりやなるまいつて! 洋杖と雨傘は、一諸にはどうしても持つて出られないのか?

ビエール——出られるよ。

ポール——さうは云つても。その時には往來ぢや見世物だ。丸で物賣見たいなもの。

ビエール——俺の云ふ事を、終まで聞けよ。俺は、夫婦物とは、何時も馬車だ!

ポール——幌馬車か?

ビエール——幌馬車でも幌なしでもかまはない。俺は、環を持つて行つて、夫婦物はそれに通して置く。かうしとけば両方とも見えるからな。

ポール——彼と彼女とをかい。

ビエール——さうすれば安心さ。雨でも太陽でもやつて

(20) assortis (形容詞. 複數形. 揃つた. 似合つたの意).

(21) manche (男性名詞. 柄の意).

voudra: de l'eau ou du soleil, je suis armé, j'ai mon ménage.

PAUL.—Pardon? Comment sortons-nous à l'instant? A pied ou en voiture?

PIERRE.—Voilà encore ce que je suis en train²² de me demander.

PAUL.—Oh! ami! bon ami! Si tu savais comme tu es bassin!²⁴ Tu ne peux pas t'en faire une idée.²⁵

PIERRE.—A quoi bon? Tu t'en rends compte mieux que moi.

PAUL.—Prends un parti, je t'en conjure. Ou je te lâche.

PIERRE.—Eh bien, je te laisse le soin de décider, parce que moi, je ne suis plus maître de ma pensée.²⁶

PAUL.—Quel bonheur! Ça ne va pas traîner, tu vas voir. No allons sortir en voiture.

PIERRE.—Quelle?

PAUL.—Victoria.²⁷ Tu prendras un ménage.

PIERRE.—Quel?

PAUL.—Tu dis que tu en as douze?

PIERRE.—Oui.

PAUL.—Tu prendras le dernier en date.

PIERRE.—C'est qu'il ne va pas avec ce vêtement.

PAUL.—Quel est celui qui irait?

(22) pommeau (男性名詞. 柄頭. 杖の林檎形の頭をした意).

(23) en train de (être en train de 將に何々しやうとするの意).

(24) tu es bassin! (bassin は男性名詞で鹽とか. 鉢とか井の意. この名詞が轉化して動詞 être を伴ふと. 間抜け者の意になる. 俗語)

こい。俺には、夫婦物つて云ふ武器がある。

ポール——時に? 今出掛けるのにや? 車かい歩くのかい?

ピエール——それも今俺が考てる事なんだ。

ポール——なんだなんだ! とても貴様にや想像がつくまい。

ピエール——ついたところで何になるんだ, 君の方がよく知つてるぢやないか。

ポール——どつちかにきめろつてば。そうぢやなきや歸るから。

ピエール——それぢや君の決断に任さう。俺はもうぼんやりしちやつたから。

ポール——占め占め! 俺だつたら愚圖々々するもんか。馬車にしやう。

ピエール——どれだい?

ポール——ヴィクトリヤさ。夫婦物を取つて來いよ。

ピエール——どれをさ?

ポール——十二組持つてるんだらう?

ピエール——あゝ。

ポール——一番新調のにするさ。

ピエール——この服にはうつらない。

ポール——どれがうつるんだ?

(25) à quoi bon? (接續副詞. 何の役にたゝう. 何に益かあらう).

(26) n'être plus maître de ma pensée (自分の考を. 確定することの出来ない事. 迷つて. どうしてよいか解らないこと. 氣が變になること).

(27) Victoria (女性名詞. 幌なしの二人乗四輪馬車).

PIERRE.—Le ménage couleur puce.²⁸

PAUL.—Prends le ménage puce. Est-ce fini? As-tu l'esprit en repos?

PIERRE.—Davantage, oui. Je te remercie.

PAUL.—Alors, dis qu'on attelle.

PIERRE.—Les bais marrons?²⁹

PAUL.—Si tu veux.

PIERRE.—C'est parce qu'ils vont mieux aussi avec ce vêtement.

PAUL.—Zut! Tu me rases.³⁰ Et moi, est-ce que je vais avec ton vêtement?

PIERRE.—Ne te fâche pas.

PAUL.—Si. Assez! Trotte chercher ton ménage.

PIERRE.—J'y vais. Tu les connais, mes râteliers³¹ de cannes et de parapluies? J'ai des merveilles.

PAUL.—Oui, oui.

PIERRE.—Il n'a y qu'une chose qui me manque pour être heureux: c'est d'avoir une canne qui m'ait été donnée par le prince de Galles.

PAUL.—C'est impossible. Tu sais bien qu'il n'en donne qu'à Fèbvre.³² Allons, fichons le camp!

(28) couleur puce (puce は元來女性名詞で、蚤の事であるが、こゝでは、轉じて、形容詞の形を取つて、蚤の様な色を意味する。この形容詞は、名詞が複数になつても、依然、單數の形を取る)。

(29) les bais marrons (bais は、bai の複數で、本來は、形容詞で赤褐色を云ふのであるが、専ら馬に就てのみ、用ひられるために、この色をした馬を意味することになる。marron は、男性名詞で、大栗を意味するが、こゝでは、形容詞に轉じて、栗

ピエール——蚤色のだ。

ポール——蚤の夫婦を連れてけ。いいか? どうだ落着いたる?

ピエール——前よりはいくぶんか。うん、有難う。

ポール——ぢや、馬をつけさせろ。

ピエール——栗鹿毛か?

ポール——よからう。

ピエール——この服には一番うつるからね。

ポール——ちえ! しつつこい奴だ。おい俺は、貴様のにうつるか?

ピエール——怒るなよ。

ポール——怒るとも。さあ! 駈けてつて、夫婦ものを探して來い。

ピエール——行くよ。君、知つてたかな俺の洋杖と雨傘の棚を? 立派なのがあるぜ。

ポール——知つてる。々々々々。

ピエール——玉に瑕とは口惜しいが、ウエールス皇太子拜領の洋杖がないんだ。

ポール——そりや無理さ。拜領物の御下賜は、フェブブルだけだつて、よく知るつてる癖に。さあ、出掛けやう。

色の意。それで、les bais marrons は栗鹿毛と云ふ意になる)。

(30) tu me rases (raser と云ふ動詞現在二人稱、raser qqn と云ふ句となつて、その意は、ennuyer qqn と同じで、退屈させる意)。

(31) râteliers (男性名詞、複數形、銃架、飼棚の意)。

(32) Fèbvre (Alexandre-Frédéric Fèbvre と云ひ、二十世紀の初頃の佛國の喜劇俳優)。

(33) fichons le camp (出掛けやうとの意)。

Le Muscle

筋 肉

LE MUSCLE

JACQUES BARBOTAN, 20 ans.

PAUL FITOU, 26 ans.

BRIGANTIN, 50 ans, professeur de boxe et de savate.

A la salle Brigantin, de très bonne heure. Barbotan et Fitou, vêtus de flanelle blanche et en sandales,¹ causent pendant un repos. Barbotan a les bras nus. Fitou, en culotte, a les mollets nus. Le professeur Brigantin, un peu ankylosé,² mais qui porte encore fameusement beau, fait la conversation avec eux, tout en marchant de long en large.

BARBOTAN, arrêté devant une glace et regardant ses biceps.—Ma parole! je crois qu'ils grossissent encore!

BRIGANTIN.—C'est bien possible. Ils sont extraordinaires, vos biceps! Voilà trente ans que je professe. J'en ai déjà vu pas mal,³ et des gentils,⁴ je vous assure. Mais ça, ces boulets de canon que vous avez là, de chaque côté, en haut des bras. . . non, j'ai jamais rien vu de pareil!

FITOU.—A ce point-là, même, ça cesse d'être beau. Ça devient une infirmité.

BARBOTAN.—L'autre, là, qui n'est pas content. Le molletier!⁵

FITOU.—Certainement. J'aime encore mieux me faire arriver les muscles dans le mollet que dans les

- (1) en sandales (sandales は、女性名詞。草履。草鞋の意。こゝでは、足蹴術をやるときに足に履く靴。こゝの en は、前置詞で、にて、を以て等、手段、方法を示す)。
 (2) ankylosé (形容詞。關節不隨になつたとの意)。

筋 肉

ジャック, バルボタン, 二十才. ポール, フイトウ, 二十六才.

ブリガンタン, 五十才. 拳闘足蹴術の指南.

ブリガンタンの道場。早朝白のネルの稽古衣を着、足蹴靴をはいたバルボタンとフイトウは、仲休の合間を、話し續けて居る。バルボタン、素肌の腕。フイトウ半股引で、腓腸を裸にして居る。指南役ブリガンタン、少々關節不隨だが、今以て、軀軀堂々、兩人と一語に、道場を、往きつ戻りつして、話をしてゐる。

バルボタン (鏡の前に立止り。頭膊筋を、眺めながら)——いや! こいつは、未だ大きくなるぞ!

ブリガンタン——さうかも知れん。あんたのは、番外ぢや! わしも指南して三十年、随分見て來たのだが。あんたのはとても素敵だ。え、こゝの、この腕の上の兩側についとる砲彈.....いや、わしは、未だこんなのは見たことがない!

フイトウ——こんなに大きくなると、立派は通り越して畸形だ。

バルボタン——そこの、腓腸の大きな先生は不満のやうだ。

フイトウ——ほんとだ。俺は、腕よりも腓腸に肉をつけ

- (3) j'en ai déjà vu pas mal (可成り多く見た意)。
 (4) gentils (形容詞。立派なるの意)。
 (5) le molletier (これは、mollet に、接尾語の ier が、加はつたもので、腓腸の持主の意)。

bras. Le mollet, c'est sa nature, c'est son devoir d'être fort.

BARBOTAN.—Pour les Suisses.⁶ Est-ce que tu voudrais être Suisse? Ah! malheur! Oùs qu'est ta hallebarde?⁷

FITOU.—Blague. Ils me servent pour la savate,⁸ mes mollets, et quand je te tire le coup de poitrine, tu éprouves le besoin de te reculer.

BARBOTAN.—Je ne m'occupe pas de la savate, moi. Je fais de la boxe, la vraie, la seule, la boxe anglaise. Approche un peu ton frais visage, que je t'allonge un coup de poing droit entre les sourcils, et nous verrons si c'est avec ton mollet que tu vas me le parer.

FITOU.—Il ne s'agit pas de ça. Il s'agit que tu te déformes.

BARBOTAN.—Elle est bonne, celle-là. Je me déforme. C'est-à-dire que je suis superbe. J'ai l'air d'un Michel-Ange.

BRIGANTIN à *Barbotan*.—Comment dites-vous?

FITOU.—D'un Michel-Ange.

BRIGANTIN.—Connais pas. A quelle salle va-t-il?

BARBOTAN.—Ce n'est pas un boxeur, monsieur Brigantin, c'est un peintre du temps de la Renaissance.

FITOU.—Un homme qui dessinait des gros bras.

BRIGANTIN.—Oh! alors, ça m'est égal.

FITOU, à *Brigantin*.—Voyons, sérieusement, n'est-ce

(6) les Suisses (1 昔. 貴族が門番に使つた. 瑞西人の事. 2 教會の取締をする鉞の附いた槍と. 劍を持つた堂守. 3 外國の軍

たい。腓腸は、強くなるのが義務なんだし、又當然なんだ。

バルボタン——瑞西人ならね。君は、瑞西人になりたいのか? あゝ! しまつた! 君の鉞のついた槍は、何處にあるんだ?

フィットウ——冗談云ふな。俺の腓腸は、足蹴に使ふのさ。俺が君の胸をひとけりやる時には、退らなきやなるまい。

バルボタン——僕は、足蹴なんかどうだつていゝ。僕は、本物の、他に比類のない英國式の拳闘をやるんだ。君のしやあとした顔を、一寸寄せて見ろ、眉間に直拳をくらはすから、君の自慢の腓腸でそれが受けられるか、どうか見たいもんだな。

フィットウ——そんなことは、どうでもいゝんだ。俺は、君が醜男になると言つてるんだ。

バルボタン——ばか云ふな。え、醜男になるつて、むしろそれは、立派になるんだ。ミケルアンジュの様にさ。

ブリガンタン (バルボタンに)——何と云ひなすつた?

フィットウ——ミケルアンジュみたいですよ。

ブリガンタン——識らん。そいつは、何處の道場に出とるのぢや?

バルボタン——先生、拳闘家ぢやないんです。ルネサンスの畫家です。

フィットウ——太い腕を書いた男です。

ブリガンタン——いや! そんならどうでもいゝんだ。

フィットウ (ブリガンタンに)——先生、ほんとに、頭膊筋もこ

隊に備はれた瑞西人の意等ある。

(7) hallebarde (女性名詞. 鉞の附いた槍の意.)

(8) la savate (足蹴術.)

pas que c'est laid quand le biceps atteint de pareilles proportions? C'est tout, excepté des bras. On ne sait plus. Avec ces boursouflures⁹. . . t'as l'air d'avoir des pets de nonne sous la peau.¹⁰

BARBOTAN.—Jaloux!

FITOU.—'Taurais du succès dans les foires,¹¹ je t'assure. Tu n'as qu'à te montrer, tu feras de l'argent.

BARBOTAN.—Toi, tu n'as qu'à te mettre une jupe, un bas de tricot, et à poser ton peton¹² sur un tabouret,¹³ tu feras un amour de femme géante, à Saint-Cloud.¹⁴ Messieurs les militaires tâteront ton petit mollet, et ils en rêveront la nuit.

FITOU, à Brigantin.—Croyez-vous qu'il a mauvais caractère, hein?

BRIGANTIN.—C'est vous qu'avez commencé, monsieur Fitou. Allons, messieurs, respect au maître, et soyons sages. Vous êtes tous les deux mes élèves: au lieu de disputer, donnez-vous la main. Et puis, vous êtes dans l'erreur, monsieur Fitou, quand vous reprochez à votre ami le développement de ses bras. La mariée n'est jamais trop belle.

BARBOTAN, à Fitou.—Ah! Tu entends?

FITOU.—Soit. Mettons que je n'ai rien dit.

(9) boursouflures (女性名詞. 膨れの意).
(10) l'air d'avoir des pets de nonne sous la peau (pets de nonne 揚げた果物. あげまんぢうのこと. 複数時には. pet のみか s を取る. それで. 皮が揚げたまんぢうでも. ほゞばつてろやうだとの意).

んなになると醜態ぢやありませんか? どんな名で呼んでもいいが, 腕と言ふ名だけは付けられやしませんね. 何だか解りやあしない. こんなに膨れ上ると.....君, 丸で, 筋肉が, 揚まんぢうでも, 頬ばつてるやうぢやないか。

バルボタン——やいてるな!

フィットウ——君, 縁日に行つて見ろ, 大持だ. 御目見得する丈で, 金儲けが出来る。

バルボタン——君は, 女の裳をつけて, 毛糸の靴下をはいて踏台の上に, あんよをのせて見給へ, サンクルーの見世者の可愛い大女だ. 兵隊さん達, 君の腓腸をなでさすつて, 夜には, 夢にまで見て呉れるぜ。

フィットウ (ブリガタンに)——先生, あいつ, 性質がよくありませんね. え?

ブリガタン——フィットウさん. 貴方が喧嘩を賣つたんぢやないか, さあ, 先生の手前もある, 大人しくして. 貴方兩人は, 私の弟子だ. 争はないで仲直りをしなさい. そればかりか, 友達腕の肉付を見て, とやかや云ふのは, フィットウさんいかんよ. 家内つてものは, きれいすぎるつてことはないのだから。

バルボタン (フィットウに)——おい! 解つたろ?

フィットウ——うん. さつきのことは, 云はないことにして置かうよ。

(11) foire (女性名詞. 縁日).
(12) ton peton (男性名詞. 小さな足さ云ふ意. 俗語).
(13) un tabouret (男性名詞. 床几. 脚台. の意).
(14) Saint-Cloud (Saint-cloud は. セーヌに臨んだ. ヴェルサイユに近い町. 多くの見世物の出る所).

BRIGANTIN.—Honneur aux muscles, voyez-vous, et laissons-les se comporter à leur guise. Tout ce qu'ils font, c'est pain bénit.¹⁵ Faut pas critiquer.

BARBOTAN.—Parbleu! Mais il ne comprend pas ça, lui! La joie qu'on a, rien qu'à regarder ses bras, à les tâter. Quand j'étais petit, je les embrassais dans mon lit. C'est comme mes muscles! Mais, pour moi, ce sont des amis! Et tous, sans préférence, les adducteurs,¹⁶ les rotateurs. . .¹⁷ Toute la bande! Je les connais par leur nom, je sais où ils sont nichés, il me semble que je les vois à l'oeil nu. Là, je sais que c'est mon vieux deltoïde,¹⁸ là mon sus-épineux,¹⁹ ici mon grand rond. . .²⁰ Ça n'est rien, n'est-ce pas? eh bien, cela me fait plaisir tout de même!

FITOU.—C'est bon. As-tu fini de nous raser avec tes aponévroses?²¹

BARBOTAN.—J'ai fini. Et d'ailleurs, je ne te raserai plus bien longtemps! Je pars samedi prochain.

BRIGANTIN.—Vous partez?

FITOU.—Tu t'en vas et tu nous quittes?

BARBOTAN.—Oui, mes poulets. Et bien loin, bien loin!

FITOU.—Où ça?

BARBOTAN.—A Chicago.

BRIGANTIN.—Pour l'Exposition?

(15) c'est pain bénit (大彌撒の時に、司祭が會衆に配布するパンの意、それから轉じて、勿躰ない物とか事の意に用ひられる)。

(16) les adducteurs (内轉筋)。

(17) les rotateurs (旋轉筋)。

ブリガンタン—筋肉は、大にこれを尊重して余計な口を入れないことだ。筋肉のなさる事は、皆な結構な事なんぢや。とやかう云ふもんぢやない。

バルボタン——そうですともさだが! あいつ、氣が付かないんでさ! 腕を見たり、觸つたりした丈で、どんなに氣持いいか。僕なんか、小さかつた時には、寢床で抱へたもんだ。僕の筋肉だつてそうです。僕に取つちや、友達同然なんだもの! 筋肉つて云へば、旋轉筋、内轉筋.....皆な好きなんだ! 僕は、その名も皆知てつる。何處に隠れてるかも、見透しちまつてるんだ肉眼で見るやうな氣がするのだ。あそこに年老りの三角筋、あそこに推骨筋、こゝに大円筋.....くだらないやうでせう? けれど僕に取つては。これがうれしいんだ。

フィットウ—わかつた。君、腱膜の事などはいゝ加減にやめたらどうか?

バルボタン—やめた。それからね。僕は君をさう何時までもうるさがらせやしないよ! 來週の日曜には、出掛けちまふんだ。

ブリガンタン—貴方出掛けなさる?

フィットウ—行つちまつて、歸つて來ないのか。

バルボタン—さうさ、坊や、しかも遠い遠い處へ!

フィットウ—どこだいそれは?

バルボタン—シカゴさ。

ブリガンタン—博覽會ですか?

(18) deltoïde (三角筋)。

(19) sus-épineux (推骨筋)。

(20) mon grand rond (大円筋)。

(21) aponévroses (腱膜)。

BARBOTAN.—Oui et non. Pour un concours de biceps qui a lieu en juin.

BRIGANTIN.—Bravo! Vous êtes capable d'avoir le prix.

FITOU.—Ah bien! Il ne te manquait plus que ça!²²

BRIGANTIN.—Et qu'est-ce que c'est que le prix?

BARBOTAN.—Deux choses. D'abord un ballon à électricité avec un ingénieux mécanisme; le tout se démonte²³ et peut tenir dans un sac de nuit.²⁴

BRIGANTIN.—Ça, c'est inouï!

FITOU.—Voilà une machine, si par hasard tu la gagnes, dans laquelle je n'irai jamais me ballader.²⁵

BARBOTAN.—Capon.²⁶

FITOU.—Et l'autre objet?

BARBOTAN.—Un revolver en or qui sonne l'heure chaque fois qu'on en tire un coup.

FITOU.—C'est plus gentil. Pour un peu, j'irais aussi à Chicago. Tu es sûr qu'il n'y a pas de concours de mollets?

BARBOTAN.—Non.

(22) il ne te manquait plus que ça! (この ça は、前文の賞品を貰ふと云ふ事を意味す。manquer は、不足するとか、持合せないとか云ふ意。ne.....plus que は一つの成句をなして、最高比較級の否定を意味して居る。皮肉つて完全無缺だの意)。

バルボタン——まあそうです。六月に頭膊筋の競技會がありますから。

ブリガタン——いよう! 賞品は、貴方のものになるかも知れんよ。

フィットウ——それこそとんでもないことになつちまう。

ブリガタン——賞品つて何です?

バルボタン——二つあります。一つは、からくり仕掛の電気軽気球です。こはして疊むと旅行鞆に入るんです。

ブリガタン——そりや、素敵!

フィットウ——もし君まぐれにもそいつを取つたら、俺は乗せて貰ひになんか行かないぞ!

バルボタン——弱虫。

フィットウ——でもう一つは?

バルボタン——黄金造りの拳銃です。引金を引く度に、一時を報らせるんです。

フィットウ——この方はました。俺も、なんだかシカゴに行きたい気がする。腓腸の競技會はないつて、君、確かかい?

バルボタン——うん。

(23) se démonte (se démonter 再歸動詞。取りくづされる。分解されるの意)。

(24) un sac de nuit (旅行用の衣服を入れる鞆の意)。

(25) me ballader (me promener の意なれど、こゝでは乗り廻す意 俗語)

(26) capon (名詞 臆病者・卑怯者の意)。

FITOU.—Tant pis. Je me serais mis sur les rangs.²⁷ Mais ça ne peut pas tarder. . . Et ce jour-là, je fais ma malle.

BARBOTAN.—N'y a qu'un point noir pour moi dans ce voyage.

FITOU.—Quel?

BARBOTAN.—La traversée. J'ai peur pour mes bras. Si le bateau allait me les abîmer.

FITOU.—Bon! Voilà une autre affaire, à présent! Tu crains qu'ils n'aient le mal de mer?

BARBOTAN.—Plaisante. Mais l'air et le changement de régime peuvent très bien les influencer.

FITOU.—Trà la la! Tu t'arrangeras. Tu les déposeras à fond de cale en les recommandant bien au capitaine.

BRIGANTIN.—Et vous resterez longtemps, en Amérique?

BARBOTAN.—Un mois environ.

FITOU.—Ça ne dure pas un mois, ton concours?

BARBOTAN.—Non, mais pendant que je serai là, j'en profiterai pour voir à droite et à gauche, m'instruire, boxer un peu.

FITOU.—Tu m'écriras?

BARBOTAN.—Si tu es bien raisonnable.

FITOU.—C'est vexant qu'il n'y ait pas moyen d'aller là-bas en bicyclette; sans ça, je t'aurais rejoint.

BARBOTAN.—Qu'est-ce que vous voulez, monsieur Fitou? il faut vous consoler.

(27) je me serais mis sur les rangs (se mettre sur les rangs)

フィットウ——仕方ないや。もしあつたらそしたらその日こそは、俺も候補者の一人になるんだつたが。たがいづれその内に催される.....そしたら荷造りをするぞ。

バルボタン——今度の旅行には、一つ黒星があるんだ。

フィットウ——なんだい?

バルボタン——航海さ。腕の爲めに心配なんだ。若し船に乗つた爲めに腕が弱りでもしたらな。

フィットウ——ふん! 又一問題かえ! 腕の奴, 酔はしまいかつて, 心配なのか?

バルボタン——馬鹿云ふな。だが, 空気と食物の變化は, たしかに影響し得るね。

フィットウ——とこ, どつこい, 々々々々! いゝやうにするさ。腕は, 船長によく頼んで, 船倉に置いとくこつた。

ブリガンタン——で, 亞米利加には, 永い間, 居るんですか?

バルボタン——一月ばかりです。

フィットウ——競技會は, 一月續かないのか?

バルボタン——うん。あつちに居つてる間に, 方々見物して, 物識りになつて, 拳闘も少しやるんだ。

フィットウ——便りはしてくれるかい?

バルボタン——大人しくして居れば。

フィットウ——自轉車で行けないのが, 癪だ。行けたら後から行くんだつたが。

ブリガンタン——フィットウさん。仕方がない。我慢するんぢや。

(は. 候補者になるの意).

FITOU.—Oui.

BRIGANTIN, à *Barbotan*.—Et maintenant, monsieur Barbotan, reprenons.

BARBOTAN.—Avec ivresse.²⁸ (*Ils se mettent tous deux en garde.*)

BRIGANTIN.—Garde à gauche. Tirez-moi au creux de l'estomac, je pare²⁹ du droit, je riposte du gauche au visage, vous parez, feinte³⁰ à l'estomac et en pleine figure.³¹ Partez. (*Barbotan exécute le mouvement.*) Pan, pan, pan! Pif, paf et pan! C'est joli, mais ça manque de colère. Sacrelotte!³² ragez, mangez-moi, n'ayez pas peur.

BARBOTAN.—Attendez un peu.

BRIGANTIN.—Là, sautez-moi dessus. Pan, pan! Bravo! Envoyez-moi ça comme un paquet de sottises.³³ Pif, paf, pan! Touché! Cette fois, c'est boxé comme le bon Dieu.

BARBOTAN.—Pas fait de mal?

BRIGANTIN.—Non. Avec le gant, c'est une caresse. Mais, sans le gant, vous assommeriez³⁴ votre monsieur en grande largeur!

BARBOTAN.—Vraiment?

BRIGANTIN.—Je vous le garantis.

BARBOTAN.—Si vous saviez le plaisir que vous me

(28) avec ivresse (有頂天になつて. 大悦びでの意).
 (29) je pare (pare の不定法は. parer で. よける. 避けるの意. 能動詞).
 (30) feinte (女性名詞. 佯撃の意. 打つと見せて相手の姿勢を崩すこと).
 (31) en plein figure (顔の真中の意).

フィットウ——はいはい。

ブリガンタン (バルボタンに)——それぢや, バルボタンさん, お相手しやう。

バルボタン——よしきた。(兩人身構へる)。

ブリガンタン——左の構をして, わしの水落を打つ, わしは, 右手でよけて, 左手で貴方の顔をやりかへすから, よけてわしの水落を打つまねをして顔の真中を打つ。さあ来た。(バルボタン打込む) パン, パン, パン! プイフ, パツフ, パン! 巧いが, 元氣が足らん。しつかり! 激しく, わしを喰ふ積りで, 何も恐れずに!

バルボタン——一寸待つた。

ブリガンタン——さあ, 上から打込んで, パンパン! いやう! さあ, 無茶苦茶に打つて来て, フイフ, パツフ, パン! 参つた! 丸で神力ぢや!

バルボタン——どうかしやしませんか?

ブリガンタン——いや。こてをはめてちや, 丸でなでて貰つてるやうぢや。こてなしだつたら, 貴方は, 相手を打ち倒すだらう。

バルボタン——さうだらうか?

ブリガンタン——さうとも。

バルボタン——嬉しいな! 僕は, それがとてもすきなんだ! 有難い! 頭膊筋が二倍にも, 三倍にも, どこまでも大き

(32) sacrelotte! (問投詞. sacristi と同じ意).
 (33) comme un paquet de sottises (sottises は. 女性名詞で. 愚鈍とか. 暗愚の意. 悪口のこと. paquet は. 男性名詞で. 包. 荷物の意. 悪口の塊を打つける様に滅茶苦茶に打つこと).
 (34) assommer quelqu'un en grande largeur (相手を完全に打ち倒すこと).

faites! J'aime tant ça! Je suis si heureux! Je voudrais que mes biceps fussent encore grossis du double, du triple, énormes, qu'ils ne s'arrêtent jamais . . . pour être l'homme le plus fort de France et de Navarre!

BRIGANTIN, à *Barbotan*.—Oui. . . oui, mais prenez garde pourtant, monsieur Jacques, et ne vous exaltez pas tant, parce que, avec des idées pareilles, la tête s'échauffe, et puis, on peut devenir fou!

BARBOTAN.—Allons donc?⁽³⁵⁾

FITOU.—En plein,⁽³⁶⁾ mon petit! Et toi, ça serait la folie des grosseurs!⁽³⁷⁾

(35) allons donc? (問投詞. 驚き. 疑惑を表はす. pas possible の意).

くなつて.....佛蘭西並びにナバール無雙の力男になりたいな!

ブリガンタン (バルボタンに)——さう.....さうとも, だが, ジャツクさん, あんまり夢中になつちやいかん。そんなことを考へてると, 逆上してしまつて狂人になつちまふ!

バルボタン——まさか?

フィットウ——ほんととも! 君のは, 肱太妄想狂たよ!

(36) en plein (副詞. 全く. 完全にの意).

(37) la folie des grosseurs! (la folie des grandeurs 誇大妄想狂をもちつて三つたもの).

Service de Pensée

御 相 談 役

SERVICE DE PENSÉE¹

ROBERT BRÉZAL, 32 ans, romancier ayant la vogue sur le point d'être décoré.

BARNABÉ, 40 ans. De l'importance.

JEANNE, 50 ans, femme de ménage² de Brézal.

Le matin, dix heures et demie. Robert Brézal est au lit, en train de parcourir les journaux, quand Jeanne, la femme de ménage, entre dans sa chambre.

JEANNE.—Monsieur, il y a là quelqu'un qui demande à vous causer.

BRÉZAL, se dressant sur son séant.—Je sais; faites entrer. (*Une minute; puis Jeanne introduit Barnabé après quoi elle se retire.*)

BARNABÉ, s'inclinant.—Monsieur . . .

BRÉZAL.—Je vous attendais. C'est vous qui êtes Barnabé?

BARNABÉ.—Oui, Monsieur.

BRÉZAL.— . . . Qui m'êtes envoyé comme valet de chambre?

BARNABÉ.—Oui, Monsieur.

BRÉZAL.—Parfait. Je suis bien aise de vous voir. Voici la chose en deux mots.³ Depuis longtemps je suis servi par la femme qui vous a introduit à l'instant.

BARNABÉ.—Une femme qui fait des ménages?

BRÉZAL.—Oui, elle a fait le mien pendant sept ans,

(1) service de pensée (御相談役のこと).

(2) femme de ménage (家内の仕事万端世話する女).

御 相 談 役

ロベール・ブレザル, 三十二才, 売れっ子の小説家, 今や勲章が下らうとして居る.

バルナベ, 四十才, 偉らぶつた男.

ジャンヌ, 五十才, ブレザルの家政婦.

朝、十時半、ロベール、ブレザル 寢床の上で、新聞に眼を通して居る。と家政婦のジャンヌ、入つて来る。

ジャンヌ——旦那さん、どなたか御目に掛りたいつて来てますよ。

ブレザル (寢床の上に、起上つて)——分つてゐる、入つて貰つてお呉れ。(その間一分、やがて、ジャンヌ、バルナベを案内して来て、引下る)

バルナベ (叩頭しながら)——これは.....

ブレザル——實は君の來るのを心待ちに待つてゐたのだ。バルナベ君だらう?

バルナベ——はい。

ブレザル——.....私の所に、下男として、來て呉れたのだね?

バルナベ——はい。

ブレザル——よろしい。よく來て呉れた。ざつとこんな譯なんだ。永い間たつた今しがた、君を案内して來た女を、使つてた。

バルナベ——家政をやる女ですか?

ブレザル——さやう。七年間、僕の家政をやつて呉れて

(3) en deux mots (副詞、畧言すれば、つまりの意).

et ma foi sans que jamais j'aie eu à me plaindre d'elle!

BARNABÉ.—Il ne faudrait plus que ça. . .⁴

BRÉZAL.—Je l'aurais bien gardée encore. Mais elle devient un peu vieille. . . paresseuse. . .⁵ Bref, j'avais besoin d'un domestique homme, vous m'avez été recommandé de différents côtés; si nous pouvons nous entendre, j'en serai ravi.

BARNABÉ.—Je ne vois pas pourquoi nous ne nous entendrions pas, Monsieur. Au contraire!

BRÉZAL.—Que voulez-vous dire?

BARNABÉ.—Dame. Monsieur écrit. Si je ne me trompe pas, Monsieur se met à son bureau quand ça le prend, et il compose. . . et tout ce qui lui passe par la cervelle, il s'en fait de l'argent? Est-ce ça?

BRÉZAL, intéressé.—En effet, c'est ça.

BARNABÉ.—Oh! je n'ignore pas qui est Monsieur! J'ai lu toutes les machines de Monsieur.

BRÉZAL.—Ah bah!

BARNABÉ.—*Adrienne. . . La Dernière Espérance. . . Pourquoi donc vivre? C'est peut-être Pourquoi donc vivre? que j'aime le mieux. Adrienne est plus raide,⁶ plus indécent. . .⁷ mais je préfère Pourquoi donc vivre? Du reste, c'est pas mon avis à moi tout seul que je vous*

(4) il ne faudrait plus que ça, (ça [i. sans que jamais j'ai eu à me plaindre d'elle] を云ふ. それ以上云ふべき事はない. 當然のことの意).

(5) paresseuse (は. paresseux の女性 形容詞. 無性とか怠者の

んだ。そしてたゞの一度も小言を言ふやうなことはなかつたんだ。

バルナベ——小言なんておつしやることがあつてたまるもんですか!

ブレザル——未だ使つて置いてもよかつたんだが。少し年を取つて來たし.....根がなくなつて.....まあこんな譯で一人下男が欲しくなつたんで。君に就いちや、方々からすゝめもあつたしするから、話がまとまれば、何よりだ。

バルナベ——纏まらないなんてことはありますまい。はい、大纏りです!

ブレザル——といふのは。

バルナベ——はい、旦那様は、たしか小説家でいらつしやいましたな氣が向くと、机にお向ひになつて、お作をなすつて.....頭に浮んだことを、片端から、お金になさるんでしたな? さうぢやございませんか?

ブレザル (興味を以て)——その通り。

バルナベ——いや、旦那様、貴方がどんな方かよく知つてます! 貴方の御作は、すつかり拜見してます。

ブレザル——そうか!

バルナベ——アドリエヌ.....一縷の希望.....何故の人生? 私は一番、何故の人生? つてのが、好きかもしれませぬ。アドリエヌは、露骨すぎて、猥らですな.....どつちかと云ふと、私は、何故の人生? の方がいゝですね。だが、これは私一人の考ぢやないので、アレキサンドルデュマ様の御考もさうで.....御父様の方ではありません!

こと).

(6) raide (形容詞. 固苦しいとか. 硬はげつたいの. こゝでは. 度をすぎること. osée の意).

(7) indécent (猥らな. 卑猥なこと. 形容詞).

donne là, c'est l'avis aussi à monsieur Alexandre Dumas. . . pas le père! Non, le fils.

BRÉZAL.—Je pensais bien.⁸

BARNABÉ.—Celui qu'a fait *La Dame aux Camélias*. Un rude pour taper⁹ des pièces de théâtre.

BRÉZAL.—En effet. Je vois que vous le connaissez.

BARNABÉ.—Si je le connais! Deux ans j'ai été sur son dos.¹⁰ Ah! il est capable! C'est le plus fort de tous!

BRÉZAL.—Et pourquoi l'avez-vous quitté?

BARNABÉ.—Pour des raisons intimes. Je me suis épousé.

BRÉZAL.—Alors, vous avez une femme?

BARNABÉ.—Non, Monsieur, je ne l'ai plus.

BRÉZAL.—Vous êtes veuf?

BARNABÉ.—Non, Monsieur, je ne suis pas veuf. . . je suis écoppé.¹⁰ J'étais tombé sur une mauvaise personne. Ma femme, tenez! c'était la baronne d'Ange. Même nature! Je ne me suis pas gêné pour lui dire, et souvent, quand nous avions des scènes: "Tiens, Eudoxie, tu me rappelles tout à fait la baronne d'Ange de monsieur Dumas, mon ancien patron."

BRÉZAL.—Et qu'est-ce qu'elle vous répondait?

BARNABÉ.—Rien. Elle me trompait avec des cochers de noblesse. Mais n'en parlons plus, voulez-

(8) j pensais bien (慥かにとか. 全くだの意).

(9) un rude pour taper.....(taper は. 叩きつけるの意. pour は. 理由を示す前置詞. rude は. しつかり者の意. 芝居の台本

息子さんの方で。

ブレザル——さうだらうと思つてた。

バルナベ——椿姫を書いた方で、芝屋の脚本をつくるには、しつかり者で。

ブレザル——成る程。君は、よく識つてゐるな。

バルナベ——識つてます所か! 私は、二年間、御厄介になつてました。やりてです! あの方の右に出る人はありやしません!

ブレザル——なぜ、君は、暇を取つたんだ?

バルナベ——なに、一身上のこつて 實は、妻を貰ひましたんで。

ブレザル——ぢや、女房があるんだね?

バルナベ——いえ、もうないんで。

ブレザル——やもめか?

バルナベ——いえ。やもめぢやないんで.....私は、振られたんで。悪い女にかかつたもんです。女房はそれ! アンジュ男爵夫人そつくりの性質でした! 度々、喧嘩をやりましたが、その時に私は、太つ平にこう云つてやりました。“おい、ユドクシイ、お前は、丸で、昔の御主人ドユマ様の御作の、アンジュ男爵夫人、そつくりぢやないか”つて。

ブレザル——それで、妻君は、何んと返答したかね?

バルナベ——何とも云ひませんでした。貴族の所の馱者どもと不義をやつてゐましてな。まあ、こんな話は、やめ

にかけては. 豪の者のこと).

(10) j'ai été sur son dos. (être sur le dos de quelqu'un は. 他人に世話をやかせるとか. 迷惑を掛けるとかの意).

vous? Revenons à notre affaire. Le départ de tout ça,¹¹ c'est que j'ai une grande habitude des écrivains, et que je suis sûr que monsieur ne regretterait pas de m'avoir près de lui.

BRÉZAL.—Voyons? Savez-vous faire un peu de cuisine?

BARNABÉ.—Oui, Monsieur. Pour le matin, Monsieur doit prendre du thé, tout léger?

BRÉZAL.—En effet.

BARNABÉ.—Parce que Monsieur a mal à l'estomac?

BRÉZAL.—Très mal.

BARNABÉ.—Tous les gens de cerveau ont un e stomac ignoble! Ah bien! Ah bien! Monsieur peut être tranquille; je lui fricasserai¹² des petits repas exprès pour lui: des oeufs, une côtelette d'agneau, du petit pain en flûte.¹³ Et jamais de vin rouge. Rien que du blanc, avec de l'eau d'Alet.¹⁴

BRÉZAL.—Je suis très ponctuel, très ordonné, je vous en préviens. Quand je mets un objet à une certaine place, je veux qu'on l'y laisse.

BARNABÉ.—Bien entendu. Et qu'on ne touche pas aux papiers. Ah! les papiers! j'en ai l'expérience, allez!

BRÉZAL.—Mon service n'est pas, en somme, très compliqué. Voici en quoi il consiste: le matin, me ré-

(11) je suis écoppé (不定法 écoper 撲られる. 放り出されるの意. 卑語).

(12) le départ de tout ça は、(こう云ふ風での意).

に致しませうではご座いませんか。そして肝心な問題に戻りませう。こういふ風で、私は文豪方の氣癖を 含込んでます。旦那さん、私を御そばに、御置きになつたつてたしかに御損はありますまい。

ブレザル——所で? 料理は少し出来るか?

バルナベ——はい、朝は、旦那さん、ごく軽く出した御茶を召上りますな?

ブレザル——さやう。

バルナベ——旦那様は、胃が御悪いからでせう?

ブレザル——非常に悪い。

バルナベ——頭を使ふ方は、どなたもひどくこはして御出でですな! いや! 旦那さん御安心なさい。軽い食事を卵と山羊の揚物と細長いぱんで、注意してお作りませう。葡萄酒の赤いのは、決して差上げません、白の葡萄酒丈けを、アレーの鑛泉で割つて差上げませう。

ブレザル——私は、とても几帳面で、時間がやかましいから、その積で居て呉れ給へ。何か物がある所に置いたら、そのまゝにして置いて貰ふ。

バルナベ——もとよりです。原稿には、手を觸れない事。あ! 原稿! 承知で御座います。はい!

ブレザル——仕事たつて、さう厄介ぢやない。まあざつとこんを譯、朝八時眼をさます、寢床に茶と郵便を持つて

(13) fricasserai (不定法 fricasser シチューにすること. 注意して. 料理すること).

(14) pain en flûte (細長いパンのこと).

veiller à huit heures, m'apporter mon thé au lit, avec mon courrier.¹⁵ Mes chaussures, mes habits, eau chaude, etc.

BARNABÉ.—La même chose que pour monsieur Dumas.

BRÉZAL.—Savoir écarter les raseurs,¹⁶ dire que je viens de sortir à la minute . . . dire que je suis à la campagne . . .

BARNABÉ.—Connu . . . Mais . . . les créanciers, les fournisseurs? Monsieur est-il pour, ou contre?

BRÉZAL.—Plutôt contre.¹⁷

BARNABÉ.—Suffit! Ils ne trouveront pas souvent Monsieur.

BRÉZAL.—Je vous donnerai aussi des courses à faire . . . des lettres à porter . . . des commissions parfois délicates . . .

BARNABÉ.—De ce côté-là. Monsieur peut également être apaisé.¹⁸ Je sais ce que c'est que la vie d'un homme en vedette.¹⁹

BRÉZAL.—Et de la discrétion?

BARNABÉ.—J'en ai de trop. Ainsi, moi, Monsieur, il m'est arrivé des choses . . . des choses que Monsieur en puiserait des bouquins à crier, avec ce que j'ai vu! . . .

BRÉZAL.—Ah?

BARNABÉ.—Eh bien! Monsieur n'en saura jamais

(15) l'eau d'Alet (Aletの鑛泉のこと。Aletは、オード県リムー郡オード村にあつて、重炭酸曹達の鑛泉のある所)。

(16) courrier (郵便物、男性名詞)。

来る、それと一諸に、靴、着物、湯等も。

バルナベ——デュマ様と同じですな。

ブレザル——うるさい客が来たら只今お出ましになつたばかり 田舎に居らつしやると云つて 追ひ返すこと。

バルナベ——存じて居ります ですが 借金取や、お出入の者は? 如何します?

ブレザル——返すんだな。

バルナベ——宜しう御座います! 旦那様には、滅多に御會はせ致しますまい。

ブレザル——それからね使走りや 手紙を持つて行つて貰つたり 又、時たま難かしい用事をたのむ

バルナベ この方の事も、旦那様、大丈夫です。賣つ兒の暮しのどんなものかは、存じてますから。

ブレザル——それと口を慎しむ事?

バルナベ——慎しみ過ぎる位です。旦那様、これまでだつて随分色んな事がありました。それこそ、これを種本になすつたら世間のを讀者を避易させる程澤山の本が出来ま

さ。

ブレザル——さうか?

バルナベ——ですが! 旦那さん何とおつしやつたつて、

(17) raseurs (うるさい野郎のこと。卑語)。

(18) plutôt contre (plutôt ennemieの意)。

(19) apaisé (不定法、apaiser 慰める、鎮めるの意)。

une pipette,²⁰ quand même il me supplierait.

BRÉZAL.—Mes compliments. Voilà ce que j'aime.

BARNABÉ.—Non. voyez-vous, allez, c'est inutile. Monsieur n'a pas besoin de s'égarer dans les recommandations. J'ai lu Monsieur: *Adrienne*. . . *La Dernière Espérance*. . . *Pourquoi donc vivre?* Mon opinion est établie: Monsieur est un homme dans le genre de monsieur Dumas, avec moins, beaucoup moins de talent! Ça ne choque²¹ pas Monsieur que je lui dise ça?

BRÉZAL.—Mais non, mon ami. Mais non.

BARNABÉ.—Je sais ce qu'il faut à Monsieur, comme si j'étais déjà chez lui depuis des années. Monsieur est nerveux, colère, assommant,²² quoi! Quand il pense à ses histoires,²³ faut pas qu'on parle, qu'on laisse tomber de petites cuillers, ni qu'on l'embête. . . Il veut qu'on respecte la solitude de son silence. . . Tiens, c'est tout naturel. . . Il n'y a pas moyen d'écrire des livres célèbres sans y songer un petit peu à l'avance. Monsieur veut aussi qu'on saisisse²⁴ les ordres du premier coup?

BRÉZAL.—Oui, je n'aime pas à répéter les choses.

BARNABÉ.—Monsieur ne répétera rien. Est-ce que Monsieur est *select*?²⁵

BRÉZAL.—Plaît-il?

(20) un homme en vedette (vedette は、芝居の用語では、千兩役者のこと。筋書の筆頭に大書されるもの。こゝでは 流行作家のこと)。

(21) une pipette (落滴管のこと。一滴もの意)。

一つたらしほどだつてお洩ししません。

ブレザ——結構だ。私も、そうして貰いたいのだ。

バルナベ——なに。なんとおつしやつたつて駄目でさ。又数多い御注意も全く不用でさ。私は、アドリエヌ……一縷の希望……何故の人生? を読んで、見當は付いてまさ。旦那様は、デュマ様のやうな方だが、文才は、ずつと尠い方です! こんな事云つて、御氣に障りませんか。

ブレザル——いや、いや。

バルナベ——私は、長い間御奉公しませんが、旦那様のお人柄は、知つとります。旦那様は、神経質で怒りぽくつて、まあ一口にいへば、うるさい方ですな! お作の材料をあれこれと御考へになる時には、話をしたり、小さぢを落したり、邪魔してもいけないつて質ですな……人を遠ざけて、黙想なさる方ですな……いや御尤ですとも……名作を、御出しになるには、前以て、少しは、考へとかなきやなりません。旦那様は、それから、一度で、言付を、聴取るのを、御望みですな。

ブレザ——さやう。私は、同じ事は、繰り返すのが、嫌ひだから。

バルナル——ははあ。承知致しました。旦那さんは、セレクトツトでゐらつしやるんですか?

ブレザル——何?

(22) choque (不定法は、choquer. 怒らす。立腹させる。氣を悪くすること。能動詞)。

(23) assommant, (être assommant うるさい者のこと)。

(24) ses histoires (小説の題材のこと)。

(25) saisisse (不定法は、saisir 握りしめる。聴取る。の意)。

BARNABÉ.—Je demande à Monsieur s'il est *select*, s'il sort? s'il va dans le monde beaucoup? Monsieur ne connaît pas ce terme-là?

BRÉZAL.—Si. Je n'avais pas compris. Oui, je sors assez.

BARNABÉ.—L'habit tous les soirs?

BRÉZAL.—Ça dépend.²⁶

BARNABÉ.—Enfin, je le préparerai tous les jours. A six heures, tous les jours, avant dîner, l'habit de Monsieur sera entr'ouvert sur son lit, avec une chemise blanche. . . Monsieur le mettra ou ne le mettra pas, il n'en fera qu'à sa guise, ça le regarde. Moi, je ne serai plus responsable.

BRÉZAL.—C'est cela.²⁷

BARNABÉ.—Par exemple, j'ai des exigences que Monsieur comprendra, j'espère?

BRÉZAL.—Lesquelles?

BARNABÉ.—Je m'intéresse aux choses de l'esprit.²⁸ Monsieur Dumas me donnait toujours des places pour toutes ses premières, eh bien, quand Monsieur produira un livre nouveau, je lui serai bien obligé de ne pas m'oublier.

BRÉZAL.—Soyez tranquille.

BARNABÉ.—La première édition?

BRÉZAL.—Ça va de soi.²⁹

(26) *select* (英語より轉化した言葉・撰り抜きのとか撰られたものの意).

バルナベ——旦那様は、つまりセレクトでいらつしやいますかつて尋ねしてるんです伺つたんで? 社交會に、たと御出でかつて、伺つたんで?旦那様、この言葉は、御存知ないのですか?

ブレザル——知つてる。ききとれなかつたのだ。そりや、可成り出掛けるが。

バルナベ——毎晩、燕尾服で?

ブレザル——その時の模様だ。

バルナベ——とにかく、毎日、御服の用意を致ませう。夕食前六時になりましたら、御服は、白のシャツと一諸に、お床の上にひらいときませう.....御着替になるとなるまいと、御勝手に。

ブレザル——さうさう。

バルナベ——あの、旦那さん、御願があるんですが? 如何なもので?

ブレザル——どんな事だえ?

バルナベ——私は、精神に關係した事に、興味があるんで。ドユマ様は芝居の招待日には、きまつて、切符を下さいました。それで旦那様も、新しい本を御出しになるやうだつたら、どうか私を御忘れにならないやうに。

ブレザル——よろしい。

バルナベ——初版を?

ブレザル——もとより。

(27) *ça dépend* (事の如何に因ること・その時の模様による意).

(28) *c'est cela*, (さうだの意).

(29) *choses de l'esprit* (精神界の事柄の意).

BARNABÉ.—Avec un petit mot d'écrit de votre main?

BRÉZAL.—Mais oui.

BARNABÉ.—Merci, Monsieur. Parce que, voyez-vous, je suis très sensible à ces procédés-là. Nous autres, avec des attentions, vous ne vous imaginez pas ce qu'on arrive à faire de nous. C'est comme si quelquefois Monsieur, quand il est en train de composer, avait absolument besoin,—je ne dis pas d'un conseil, mais d'une approbation³⁰—eh bien, qu'il ne se gêne pas avec moi, je quitterai mon service un instant, et j'entendrai Monsieur chaque fois avec bien du plaisir.

BRÉZAL.—Bon à savoir.

BARNABÉ.—C'est énorme, allez, pour un écrivain, d'avoir près de soi quelqu'un de bien disposé à écouter... ça a beau n'être qu'un domestique, c'est toujours du public, et ça flatte³¹ quand même! Et puis, quoi! Molière n'a rien fait sans sa bonne.

BRÉZAL.—Évidemment!

BARNABÉ.—Je ne vais pas jusqu'à dire que je communiquerai mon opinion à Monsieur, mais enfin s'il me la demandait... au cas où il tiendrait à la connaître, elle sera toujours à sa disposition...

BRÉZAL.—Merci.

BARNABÉ.—Moi-même, mon Dieu oui, Monsieur...

BRÉZAL.—Quoi?

(30) ça va de soi. (それは當然だ. 云ふまでもない事だ.)

バルナベ——一寸一言御直筆で書いて頂いて?

ブレザル——いゝとも。

バルナベ——有難う御座います。旦那様。私は、さうして頂くのが何よりなんで。御存知ありますまいが、下男つてものは一寸氣を付けてやるとどんなことでも致しますもので。お作をなすつてらして、ひよつと——私は、意見なんて申すんぢやありませんが、善いとか悪いとか申す丈で——どうしても、それが知りたくおなりになつた折には、御遠慮なさらないで下さい。私は、一時、下男をやめましてよろこんで御相談に御乗りします。はい。

ブレザル——こりや、いゝことを知つた。

バルナベ——文學者に取つて、傍に、相談相手のあるのは、たいしたこつてす.....それは、例へ下男にすぎなくつても、讀者が居るんです。嬉しいこつてす!それに! モリエールだつて、下女なくして、何の功です。

ブレザル——そうとも!

バルナベ——私は、意見を申し上げやうとは、申しませんが、御入用なれば.....聞いて見たいと云ふ折には、何時だつて御用立致します.....

ブレザル——有難う。

バルナベ——この私だつて。はい、旦那様.....

ブレザル——何だ?

(31) une approbation (同意. 賛成. の意).

BARNABÉ.—Oh! rien.. Monsieur se moquera de moi!

BRÉZAL.—Allez donc.³²

BARNABÉ.—Moi-même, à mes moments perdus,³³ le soir, dans ma chambre... je travaille un peu... je fais... j'écris...

BRÉZAL.—Que faites-vous? Quel genre? Parlez?

BARNABÉ.—Je fais des rébus...³⁴ Monsieur, des mots carrés, en losange...³⁵ des problèmes ingénieux... simples et ingénieux... Sans doute, ce n'est pas du grand art comme Monsieur, c'est à côté de l'art; mais pour ce que ça est,³⁶ on peut trouver plus mal.

BRÉZAL.—J'en suis convaincu. Vous m'apprendrez, voulez-vous?

BARNABÉ.—Quand il plaira à Monsieur. Et bien d'autres choses encore, allez! Que Monsieur me prenne, il ne s'en repentira pas. Je sens dans mon esprit que je suis la botte de Monsieur.³⁷

BRÉZAL.—Eh bien, c'est entendu, Barnabé, je vous prends.

BARNABÉ.—Monsieur n'a pas tort. Et Monsieur verra, mon service ne ressemble en rien à celui d'un autre... C'est comme qui dirait, mon service...
(Il cherche.)

BRÉZAL.—Achevez.

BARNABÉ, *solemnel.*—C'est un service de pensée.

(32) ça flatte (不定法は. flatter 能動詞. 嬉しがらせること).

(33) allez donc. (さあ言への意).

(34) à mes moments perdus (副詞. 暇の時に).

(35) faire des rébus (判じ物. 謎をとくこと).

バルナベ——やあ! なに..... 旦那様御笑ひになる
でせう!

ブレザル——さあ言ひ給へ。

バルナベ——私は, 夜, 暇になりますと。部屋で.....
少しばかり仕事を..... やります..... 書き物を.....

ブレザル——何を書くんだ? どんなものを? 話して呉れ?

バルナベ——判じ物をとくので..... 旦那様, 四角
や菱形の文字..... こみいつた問題..... 容易しく

つて難かしい..... 旦那様のなさるやうな大藝術ぢや
ないんです。が。まあ似寄つたもんで, さうはいひますもの
ゝ, 低級とは申せこれに劣るものだつていくらもあります。

ブレザル——成程。私にも教へて呉れないか。どうだ?

バルナベ——何時でもよろしう御座います。未だ外にも
あります。大丈夫! 旦那様御雇ひになつて御損はありません。
私は, 旦那様の長靴であると云ふ心持ちが致します。

ブレザル——それぢや, バルナベ君, 雇ふことにする。

バルナベ——御尤です。その内には, 私の奉公振の外の
者と段違ひなのが, 御解りになりますな..... 私の奉公
は (口ごもる)

ブレザル——何と云ふか?

バルナベ——(勿躰つけて)——智的の奉公で御座います。

(36) des mots carrés en losange (四角又は菱形に文字を組んで.
どつちからよんでも同じによめる言葉のこと).

(37) pour ce que ça est. (低級な藝術としての意).

(38) la botte (長靴のこと).

Epilogue

エピローグ

ÉPILOGUE

GONTRAN DE SAINT-GALMIER, 28 ans.
 BOIBRILLANT, 30 ans.
 CHEMINEAU, 21 ans.
 MABON, le plus jeune qui paraît le plus vieux.
 Madame DUROCHER aînée, 40 ans, des bandeaux.¹

Minuit et demi, en avril, au bar de la rue Tronchet, dirigé par Mesdames Durocher. Tous les quatre à peu près pareils — même frac, même linge glacé, mêmes pieds vernis, la tête et les genoux pointus — sont juchés² sur les hauts tabourets, et accoudés au comptoir.

MADAME DUROCHER aînée, à *Boibrillant*. — Que prenez-vous?

BOIBRILLANT. — Mon soda ordinaire.

MADAME DUROCHER, *au même*. — Brandy?

BOIBRILLANT. — Brandy.

SANT-GALMIER. — Moi, kummel et glace pilée,³ comme aux enfants.

CHEMINEAU. — Bénédicte, moi, liqueur bien pensante.⁴

MADAME DUROCHER, à *Mabon*. — Et vous, monsieur? Aussi un soda?

- (1) des bandeaux (髪の毛を、額の上で、分けて、頭の後で束れたこと)。
 (2) juchés (不定法は jucher 鳥の木に棲ること、それから轉じて、丈の高い椅子に腰掛けることを云ふ)。
 (3) Kummel et glace pilée (キユメル酒のこと、pilée は、piler

エピローグ

ゴントラン、ド・サン、ガルミエ、二十八才。
 ボアブリヤン、三十才。
 シュミノー、二十一才。
 マアボン、一番老けて見えるが一番の若僧。
 姉さんのデュロシエお内儀、四十才、髪を額で分けて後で巻いて居る。

デュロシエ姉妹の宰配を振ふて居るトロンシエ横町の酒場。四月の眞夜中。四人共丸で同じやうに一同い燕尾服、同じ色の光澤のある襦衣、同じエメナルの靴、頭と膝頭を尖らして一丈高い椅子にとまつて、丁場に駄ついで居る。

姉さんのデュロシエお内儀 (ボアブリヤンに) — 何を召上ります?

ボアブリヤン — 例のソーダ。

デュロシエお内儀 (同人に) — ブランデー?

ボアブリヤン — さう。

サン、ガルミエ — 俺は、子供の仲間入で、ぶつかき氷入のキユメル酒だ。

シュミノー — 俺は、その名も床しいベネデイクテイーヌ酒だ。

デュロシエお内儀 (マアボンに) — それで貴方は? 矢張りソーダ?

碎く、搗くこと、それが形容詞に用ひられたもの、この et は、avec の意、Kummel は、蒔蘿で造つた香の高い酒。

- (4) bénédicte, liqueur bien pensante. (pensante は、penser の形容詞に轉化したもの、bénédictine は、洋酒の名、それを、bénédictin 派の僧侶にかけて、liqueur を、pensante と云ふ言葉で形容して、しやれて云つたもの)。

MABON.—Non. Moi, vous me ferez traire⁵ un lait. Bien chaud. Ah! nous sommes de joyeux viveurs.

CHEMINEAU, à Saint-Galmier.—Est-ce que c'est vrai, à propos, ce qu'on m'a dit? que Mirette, ton ancienne, était mariée.

SAINT-GALMIER.—Tout ce qu'il y a de plus vrai.

BOIBRILLANT.—Elle avait été lâchée par Pom-melé?

SAINT-GALMIER.—Brutalement.

MABON.—Et avec un enfant, encore! Quel sexe?

SAINT-GALMIER.—Masculin. Du moins, je le pense; il s'appelle Arthur.

MABON.—Fichu nom!⁶ Une femme qui a un enfant de l'amour et qui lui colle sur la tête le nom d'Arthur quand il vient au monde. . . que veux-tu que je te dise? cette femme-là mérite d'être lâchée, archi-lâchée.

CHEMINEAU.—Un peu.

SAINT-GALMIER.—Si vous tenez à savoir la fin, laissez-moi parler.

BOIBRILLANT.—Charme-nous. Cause.

SAINT-GALMIER.—Cette pauvre Mirette était tom-bée, elle et son enfant. . .

CHEMINEAU.—Arthur?

SAINT-GALMIER.—Oui.

MABON.—N'y a pas!⁷ je ne peux pas me faire à ce

(5) traire (乳を搾ること. 能動詞).

(6) Fichu nom! (fichu は. 形容詞の時は. 下らないとか嫌なとかの意. こゝでは. 前の句 il s'appelle Arthur を受けて.

マアボン——いや。俺には、搾り立ての乳だ。極くあつい奴を。あゝ! 吾々は、一杯機嫌の浮れ者か。

シュミノー (サン, ガルミエに)——時に, あの事はほんとうか? 君の先きの愛人のミレットには, 夫が出来たんだつて?

サン, ガルミエ——ほんとうとも。

ボアブリヤン——ボムレーの奴に, 捨てられたんだつて?

サン, ガルミエ——亂暴にもさ。

マアボン——おまけに子供も一諸か! 男かい女かい?

サン, ガルミエ——男だと, 俺はさう思つてる。アルテュールつてんだ。

マアボン——いやな名だな! 戀の兒を作つて, 生れ落ちるとアルテュールつて名を, ひつつけたんだつて..... いやはや? そい奴捨てられたのが當り前とも, 大いにさうだ。

シュミノー——さうかも知れんな。

サン, ガルミエ——委細を知りたいなら。黙つて聞いて給へ。

ボアブリヤン——聞きたいな, 話せ。

サン, ガルミエ——衰れなこのミレットは落つこつて仕舞つてたんだ。子供と一諸に.....

シュミノー——アルテュールだね?

サン, ガルミエ——どうしても駄目だ! 俺には, この名が

Fichu nom! と云つたので. 付もつけたり. 下らない名を! の意.

(7) N'y a pas! (は. とても駄目だの意).

nom-là. (*A Saint-Galmier.*) Mais pardon. Tu dis qu'ils étaient tombés. . . ?

SAINT-GALMIER.—Dans une dèche⁸ noire.

CHEMINEAU.—Comment! personne n'était venu à leur aide! Pommelé? . . .

SAINT-GALMIER.—Rien du tout. On voit bien que tu ne connais pas Pommelé. Quel type!⁹

BOIBRILLANT, à *Saint-Galmier.*—Mais toi?

MABON, *au même.*—Oui, toi, son premier?

SAINT-GALMIER.—Attendez. Toi, toi! Sans doute, moi, parbleu! j'ai fait quelque chose pour¹⁰ elle.

MABON.—Quoi?

SAINT-GALMIER.—Laisse-moi raconter. Tu me coupes tout le temps. Ce que j'ai fait, ça ne vous regarde pas. . . Ces choses-là doivent rester secrètes. . . Mirette est venue me trouver, on a parlé de tout ça, et puis. . . Bref, elle est sortie de chez moi enchantée, très reconnaissante.

BOIBRILLANT.—Bravo!

SAINT-GALMIER.—Seulement, que voulez-vous? avec le meilleur coeur du monde, on ne peut pourtant pas toujours donner.

CAEMINEAU.—C'est vrai. On serait un saint.

SAINT-GALMIER.—Et alors, dame!¹¹ de fil en aiguille,¹² un jour-ci, un jour-ça. . . bref, cette pauvre petite Mirette. . .

(8) une dèche (零落. 貧窮の意).

(9) Quel type! (何人 何様の意).

(10) j'ai fait quelque chose pour elle (faire quelque chose

我慢出来ないんだ。(サン. ガルミエに) や, 失敬。君, 兩人が落つこつて仕舞つたつて.....?

サン, ガルミエ——お先眞暗な貧乏のどん底にさ。

シュミノー——え, 誰も助けに行かなかつたのか? ポムレーは?.....。

サン, ガルミエ——それどころか。君は, ポムレーを知らないな。なんて云ふ奴だらう!

ポアブリヤン (サン. ガルミエ)——ぢや, 君は?

マアボン (サン. ガルミエに)——そうとも, 最初の男の君はどうした?

サン, ガルミエ——待てよ, 君, 君つて! 勿論, あれには, 盡したものだ。

マアボン——何をだい?

サン, ガルミエ——邪魔しないで, 話させろ。そう始終口を入れちやや困る。俺のしてやつた事なんか, 君達には関係ないことだし.....秘密にしとかなけりやならないんだ.....ミレットは, 俺の所へ来て, 委細残らず話した, それから.....手取り早く云へば, 嬉こんで, 禮をいつて, 歸つてつたんだ。

ポアブリヤン——いやう!

サン, ガルミエ——だがね。いくら俺が, 世界に稀な慈悲深い御方だとしたつて, さう始終は, 世話は出来ない。

シュミノー——そうとも, 聖人ぢやあるまいし。

サン, ガルミエ——そこで, 日一日と, 次第次第に.....つまりこの衰れな可愛いミレットは.....。

pour quelqu'un 或人の爲に. 盡してやる).

(11) dame! (問投詞).

(12) de fil en aiguille (次第を追ふての意).

MABON.—Oui, elle et l'enfant sont tombés dans la dèche noire; ils y sont dans la dèche, en plein. . . c'est une affaire réglée! Avance, voilà une heure que tu trottes sous toi.¹⁰

SAINT-GALMIER.—Parce que vous m'interrompez à chaque minute. Eh bien! j'ignore comment c'est arrivé, mais au moment où elle désespérait de tout et où elle pensait à se jeter à l'eau. . .

BOIBRILLANT.—Si j'avais été là!

MABON.—Tu ne sais pas nager.

SAINT-GALMIER.—Elle a fait la connaissance d'un brave homme, un commerçant assez riche, ma foi, un monsieur Durand qui a eu pitié de son malheur, qui l'a tirée d'embarras, et puis finalement qui l'a épousée.

CHEMINEAU.—C'est très chic,¹⁴ ça. Je trouve ça d'un chic! . . .

SAINT-GALMIER.—Et on assure qu'ils s'aiment beaucoup. Il adore l'enfant.

MABON.—Oui, les pessimistes auront beau dire, allez! Il y a tout de même de braves gens.

BOIBRILLANT.—Tiens! Sans ça. . .

MABON.—Où irait-on?

BOIBRILLANT.—On retournerait à la Commune,¹⁵ tout bêtement.

(13) tu trottes sous toi (同じ所をぐるぐるかけ廻ること).

(14) c'est très chic (chic は俗語で、粹だとか云ふ意。こゝでは、立派な行爲だの意).

(15) on retournerait à la Commune (Commune は、千八百七

マアボン——お先眞暗な貧乏のどん底に落つこつたつて云ふんだろ。全くどん底に落ちてるんだ.....それはもうわかつてるよ! 續きを云へ。一時間も同じ事を云つてるぢやないか。

サン, ガルミエ——だつてさ。皆んなが始終嘴を入れてるからさ。所で! どんな事が起つたのか知らないが, あれはすつかり悲觀してしまつて, 身を投げやうとした時に.....

ボアブリヤン——俺が, そこに居合はせたらな!

マアボン——君, 泳げないぢやないか。

サン, ガルミエ——可成金のある商人のデュランつて云ふ感心な男と, 識り合ひになつたんだ。そい奴は, あれの不幸に同情して, 救つてやつて, 遂に夫婦になつたのだ。

シュミノー——そりや剛毅。いや, とても剛毅だ!.....

サン, ガンシエ——そればかりか, 確かな話ぢや, とても仲が善くつて, その男は子煩悩との事。

マアボン——さうだ, 人間萬事塞翁が馬, 心配するな! 兎に角世の中には感心な男が居るからな。

ボアブリヤン——そうとも! さもなかつたら.....

マアボン——吾々, 何處へ落ち附くだらう?

ボアブリヤン——コムミューヌの時代に戻るやうになるだらうさ!

拾壹年五月の佛國の革命を云ふ。retourner à は recommencer à のこと。こゝの條件法の現在になつて居るのは、前の前の句に Saus ça..... と云ふ條件がある爲で、又、Commune を起すであらうの意。

MABON.—Les plus mauvais jours de notre Histoire.

SAINT-GALMIER.—Voilà. De cette façon, tout le monde est satisfait: Pommelé, sa femme, Mirette, monsieur Durand et votre serviteur ici présent. Ah oui, tant mieux pour Mirette, parce que c'est une brave fille. Et ce que je l'ai aimée, on ne le saura jamais!

CHEMINEAU.—Où donc l'avais-tu rencontrée déjà?

SAINT-GALMIER.—Sur un refuge.¹⁶ Place de l'Opéra.

BOIBRILLANT.—Et vraiment, tu as été son premier.

SAINT-GALMIER.—Je m'en flatte.

MABON.—Non, parole d'honneur, tu la séduis, camarade?

SAINT-GALMIER.—Oui, mon gros.

MABON.—Tu nous étonnes bien.

CHEMINEAU.—C'est elle qui te l'a dit?

SAINT-GALMIER.—... Non...

MABON, *sceptique*.—Ouf! Et combien de temps es-tu resté au juste avec elle?

SAINT-GALMIER.—Je ne me rapelle plus. Ça doit être dans les deux mois.

BOIBRILLANT.—Pourquoi l'as-tu plaquée,¹⁷ puisque tu l'aimais tant?

SAINT-GALMIER.—Parce que. Parce que je me méfie de moi; j'ai trop de coeur.

(16) sur un refuge (避難所. 雨やどり. 事避場のこと. こゝでは. 安全地帯のこと).

マアボン——吾が國史の最悪の時代にさ。

サン, ガルミエ——こんな譯で。皆が丸く納つたのだ。ポムレー, その妻かミレット, ドュラン君, それからこゝに御出の諸君の従僕はさ。あゝさうとも, ミレットに取つちや仕合せだ, 感心な娘だからね。皆は知るまいが, 俺がどんなに可愛がつてやつてたかとても君等には想像出来やしまいよ!

シュミノー——一體君は何處で, その昔めぐりあつたて云つたかね?

サン, ガルミエ——オペラ廣場の, 安全地帯でさ。

ポアブリヤン——で。君が最初の戀人だつて, ほんとうに。

サン, ガルミエ——さうとも。

マアボン——冗談ぢやないぜ, 柄でもないぢやないか, 君が誘拐したんだつて?

サン, ガルミエ——あゝ。

マアボン——呆れたね。

シュミノー——あれがそう云つたのか?

サン, ガルミエ——..... ううん.....

マアボン (信じかれて)——やれやれ!——一體どの位あれと同棲してたんだ?

サン, ガルミエ——忘れちまつたな。二月位だらう。

ポアブリヤン——そんなに可愛がつてたのに, 何故ほつ放だしたのだ。

サン, ガルミエ——そうさな, 俺は自信がないからさ。とても情に脆いんだからね。

(17) plaquée (不定法 plaquer 見捨てること. 卑語).

MABON.—Passe-nous-en.

CHEMINEAU.—Il a raison. Pas de collage!¹⁸

SAINT-GALMIER.—A moins qu'on ait une nature très froide, très personnelle. Alors, oui, c'est sans danger.

MABON.—Et encore! Le mieux, allez, c'est de faire son papillon¹⁹ bien parisien!

Jeune, beau, petit maître, il court de fleur en fleur,
Prenant et quittant les plus belles!

Ah! le père Florian²⁰ n'était pas une oie, il savait ce qu'il disait. (*A madame Durocher.*) Encore soif, ma bonne dame, Quelque chose d'un peu plus tendu?²¹

MADAME DUROCAER.—Un petit coxtail?

MABON.—Trop tendu, le coxtail.

MADAME DUROCHER.—Un cassis?²²

MABON.—Pas assez.

MADAME DUROCHER.—Un tokay?²³

MABON.—Non, la Hongrie m'embête. Tout bonnement. . . un lait, tenez.

MADAME DUROCHER.—Un second lait?

MABON.—Oui. Ah! c'est que nous sommes de joyeux viveurs! (*A Boibrillant.*) Qu'est-ce que tu as, toi? T'es triste, tu ressembles à Luther.

BOIBRILLANT.—Je pense à ce qu'on dit. Je pense

(18) pas de collage! (男性名詞. 貼付. 糊付のこと. 不正な結婚の意. 俗語).

(19) papillon (蝶のこと. 軽薄な人. 氣の變りやすい男のことも云ふ).

マアボン——俺達に少しそれをわけて貰ふかな。

シュミノー——尤もだ。内縁はいかんよ!

サン, ガルミエ——冷靜な性質の持主なら別物だが。そりや, 天下泰平だ。

マアボン——それだつて, まあ一番, 安全なのは巴里の胡蝶式にやることだ

若くて綺麗な氣取り屋で, 花より花へかけめぐり, とさめく美花を, 摘み捨て!

いや! フロリヤンの親父, 馬鹿ぢやない, 通人だ。(デュロシエお内儀に) 未だ咽喉が渴いてる。お内儀さん, も少し強い飲み物呉れないか?

デュロシエお内儀——コクテールに致ませうか?

マアボン——きつ過ぎるよ。

デュロシエお内儀——すぐり酒は。

マアボン——よわ過ぎるよ。

デュロシエお内儀——トケー酒は?

マアボン——いや, 匈牙利は嫌ひだ。それぢや乳でいい。

デュロシエお内儀——もう一杯ですか?

マアボン——さう。あゝ! 一杯機嫌の浮れ者か! (ボアブリヤンに) 君, どうしたんだ? 丸でルーテルそつくりぢやないか。しかめ面して。

ボアブリヤン——俺は, 世間で云ふ事を考へてるんだ。

(20) Florian (一七五五—一七九四) 十八世紀の寓話作家。

(21) tendu (形容詞. 強くきくの意)。

(22) un cassis (黒すぐりの酒. 語尾の s は發音する人もある)。

(23) un tokay (匈牙利のトケーで取れる酒)。

qu'en attendant les années filent, et puis qu'il ne m'arrive rien.

SAINT-GALMIER.—Gourmand!

BOIBRILLANT.—Quand j'étais au collège, surtout pendant les classes de math,²⁴ je rêvais d'un tas d'embrouillamini,²⁵ avec de l'amour pour de bon. Depuis, zéro franc, zéro centime.

SAINT-GALMIER.—Tu voudrais être amoureux?

BOIBRILLANT.—Mais oui, pour voir.

MABON.—C'est le printemps qui te fait ça. La feuille pousse.

BOIBRILLANT.—Ça doit être si agréable d'être amoureux, et aimé surtout! Depuis ma naissance, je n'ai jamais été aimé par personne, moi!

SAINT-GALMIER.—Peux-tu dire! Et tes parents?

BOIBRILLANT.—Ça ne compte pas. Je parle de l'amour, l'amour vrai, petite fleur bleue. . . l'amour, enfin, il n'y a pas deux mots-pour l'exprimer.

MABON.—Laisse-le donc tranquille, l'amour. Est-ce qu'il existe, seulement?

CHEMINEAU.—Mabon, tu vas un peu loin.

MABON.—Permettez, entendons-nous, et ne me faites pas dire de bêtises. Non, nous sommes là, nous remuons des idées. . .

SAINT-GALMIER.—Agite la tienne.

MABON.—Eh bien, l'amour, je me fiche²⁶ de savoir s'il existe; et comme je ne le cherche pas, il m'arrive.

(24) math (collège の高等科は、文科と理科に分れる。理科の意)。

(25) un tas d'embrouillamini (混亂・混雜の意)。

次から次へと年は過ぎ行くが俺には何のよい話もないと思つてるんだ。

サンガルミエ——煞張な奴!

ボアブリヤン——俺が、學生時代、上級に居た時分なんか、色々な複雑した眞の戀事を夢見て居たんだが。學校を出てからは、何にもありやしない。

サン、ガルミエ——君は、愛をしたいのか?

ボアブリヤン——うん、試みにやつて見たいのだ。

マアボン——春のせいだ。時は、木の葉の芽ぐむ頃。

ボアブリヤン——愛するつて、殊に愛されるつて、なんて愉快なこつだらう!俺は生れてから、誰にも愛されたことなんかありやしない、俺は!

サンガルミエ——よくも云へたね!君の兩親には?

ボアブリヤン——そりや別だ。俺の云つてるのは、愛。眞の愛、莖の愛.....要するに愛なんだ。

マアボン——愛なんてほつとけ。愛つてほんとにあるのかい?

シュミノー——マアボン、云ひ過ぎだぞ。

マアボン——君、僕の言つたことをよく玩味し給へそして僕を曲解して呉れちや困る一體吾々は、色々な考を發表して.....。

サン、ガルミエ——君の考を發表しろ。

マアボン——それぢややろう。愛か、俺なんてそれが實在してるかどうかそんなことどうでもいゝのだ。探り廻ら

(26) je me fiche (不定法 se fichier. かまわぬ、何んとも思はぬの

Chaque fois qu'une occasion passe, je la cueille. Jamais je ne m'en tiens à une, je profite de toutes. Stout²⁷ et pale ale;²⁸ brune et blonde. Aussi je suis très trapu dans la vie;²⁹ je rigole³⁰ et je ne pleure pas. Maintenant, faudrait pas non plus vous imaginer tous que j'ai un savon³¹ à la place du coeur et que je ne sens rien. *Errat qui putat!* Ainsi, je ne déteste pas, après le Grand-Prix,³² d'être en sapin³³ découvert avec une petite amie, le soir, au Bois, et puis de m'anéantir à penser: "Cré bon sang!³⁴ pourquoi est-on sur la terre, en somme? Dire que je suis né, moi, Mabon. . . c'est crevant!"³⁵ Et après, de s'embrasser tous les deux, en parlant de la lune, et de toutes les choses qu'on ne sait pas!

CHEMINEAU.—Il me semble que tu nous la fais au lac, jeune gondolier.

SAINT-GALMIER.—Oui, tu me rappelles. . . Chose, l'écrivain. . . Lamartine.

BOIBRILLANT.—Ne le blaguez³⁶ pas. Vous avez beau vous moquer, nous avons tous plus de coeur que nous ne croyons. Tout le monde a du coeur, et je suis bien sûr, moi, qu'il n'y a pas un seul de nous quatre qui

- (27) Stout (黒ビールのこと)(英語).
 (28) pale ale (英國製の麥芽を一寸炒つて. 造つた軽い白麥酒).
 (29) je suis très trapu dans la vie (人生をよく識つてること).
 (30) je rigole (不定法. rigoler! 笑ひ興する. ふざけること).
 (31) j'ai un savon à la place du coeur (のこと).
 (32) le Grand Prix (競馬のこと).

ないから, 却つて向ふからやつて来る。機會があると捉へる。俺は一つにばかり打込まない。片端から渡りをつける。黒麥酒白麥酒, 即ち金髮, ブロンド。こんな風で俺は世の中をよく識つてゐるんだ。ふざげて暮して泣いたことなんかありやしない。だが諸君, 俺は心の代りに人情を知らない石驢の持主だなんて考へちやいげないぜ。そりや大間違だ! だからさ, 競馬が終つて, 夜, さる女と辻馬車を雇つて, ブローニユの森を走らせながら, ほんとに! 人間は何の爲にこの世に生存してるのか? この俺様マアボンがこの世に生れて..... 奇妙なこつた!" なんて考に沈むだりさ。それから月や, 譯の分らないことを喋り合ひながら, 抱き合ふこともやるのさ!

シュミノ—いやう。お若いゴンドラ船頭。馬鹿に詩的になつて來たぢやないか。

サンガルミエ—そうだ丸で.....あの文豪の.....ラマルテイーヌ。

ボアブリキン—ひやかすな, 俺達はとに角, なんて云つても, 思つたより情がある。皆な情を持つてゐるんだ。所でこ

- (33) être en sapin découvert (幌なしの辻馬車に乗ること. sapin は卑語).
 (34) Cré bon sang! 問投詞.
 (35) c'est crevant! (crever は. 裂く. 割る. 切るの意. こゝでは. 受動詞の意になつて. こゝでは. 可笑な事だとか. 意想外の事だとかの意). 俗語
 (36) ne le blague pas (不定法 blaguer quelqu'un からかふ事).

mourra sans avoir aimé, sans avoir vibré à l'amour. . .
Parfaitement.

CHEMINEAU.—L'amour! Chapeau pointu! Je voudrais bien d'abord savoir ce que c'est. Celui-là qui me le réciterait, je lui donne ma montre.

SAINT-GALMIER.—Ça peut très bien se définir.

BOIBRILLANT.—Mais oui.

CHEMINEAU.—Je vous écoute.

SAINT-GALMIER.—C'est le. . . la. . .

BOIBRILLANT.—Le. . .

SAINT-GALMIER.—La faculté³⁷ de. . .

BOIBRILLANT.—Le sens³⁸ du. . . qui porte un être. . .

SAINT-GALMIER.—Vers son semblable. . .

BOIBRILLANT.—D'un autre sexe!

SAINT-GALMIER.—Voilà. (*A Chemineau.*) Passe la montre.

CHEMINEAU.—Non. A quoi bon chercher, d'ailleurs? L'important, au fond,³⁹ ce n'est pas de définir l'amour, c'est de l'éprouver, bons amis.

BOIBRILLANT.—Parbleu!⁴⁰ Le coeur, le coeur. Il n'y a que le coeur!

MABON.—Et le lait. Un lait, madame! Ah! nous sommes de joyeux viveurs!

(37) la faculté (性能. 力のこと).

(38) le sens (官能. 感情のこと).

の四人の中で一人だつて、愛しないで熱愛しないで、死ぬ者なんかありあしないつて云ふことは、確かだ。

シュミノール——愛か! 尖つた帽子か! 俺は、愛つて何だか知りたいな。教へて呉れたものには、俺の時計をやる。

サン, ガルミエ——立派な定義が下せるさ。

ボアブリヤン——そうだとも。

シュミノール——謹聴。

サン, ガルミエ——愛とは、は.....は。

ボアブリヤン——は.....

サン, ガルミエ——性能なり.....

ボアブリヤン——官能.....人類をして.....

サン, ガルミエ——その同じ人類の方に.....

ボアブリヤン.....異性の人類の方に?

サン, ガルミエ——終り。(シュミノールに)時計を寄越した。

シュミノール——いやだ。愛の定義を求めて何になるんだ。一番大切な事は、そんなこつちやない。それを感じるにあるんだ、諸君。

ボアブリヤン——そうとも! 心だ、心だ。心なくして何の愛だ。

マアボン——乳を。お内儀さん、乳を一杯! あゝ! 吾々は、一杯機嫌の浮れ者か。

(39) au fond (副詞. 眞實. 實際に).

(40) Parbleu! (問投詞).

佛蘭西文學譯註叢書第二篇

彼等の心

大正十五年一月廿日印刷

大正十五年一月廿五日發行

【定價金壹圓五拾錢】



譯者 奥村稔

發行者 福岡易之助
東京市神田區表神保町一〇

印刷者 堀直江
東京市芝區田村町十八番地

印刷所 光有社印刷所
東京市芝區田村町十八番地

發行所

白水社

東京市神田區表神保町十番地

振替東京一一九二二番

電話大手一七五四番

白水社發行佛蘭西語書類

NOUVEAU
DICTIONNAIRE
FRANÇAIS-JAPONAIS

模 範
佛 和 大 辭 典

東京帝國大學文學部教授
エミール・エツク先生手東

大 審 院 判 事 法 學 士	慶 大 教 授 文 學 士	三 高 教 授 文 學 士	一 高 教 授 商 大 講 師	醫 學 博 士	一 高 教 授 文 學 士	文 學 士	陸 軍 教 授 文 學 士	京 大 助 教 授 文 學 士	學 習 院 教 授 文 學 士
柳 川 勝 二	廣 瀬 哲 士	折 竹 錫	石 川 剛	荒 井 恒 雄	內 藤 濯	福 岡 易 之 助	池 田 立 基	太 宰 施 門	山 本 直 文

山本鼎氏裝幀

佛蘭西式總革製本

數紙二千二百頁・語數十萬

定價金九圓 送料金貳拾七錢

白水社發行佛蘭西語書類

PETIT
DICTIONNAIRE
FRANÇAIS-JAPONAIS

新 佛 和 小 辭 典
佛 蘭 西 文 學 會 編

最新ポケット形・總革裝幀

定價金貳圓八十錢 送料金六錢

日佛兩文月刊雜誌

杉田義雄主幹

LA SEMEUSE

(佛蘭西語の研究と鑑賞機關)

每月一回一日發行 一部金五十錢
送料一錢 半年分金參圓 (送料共)
一年分 金五圓五十錢 (送料共)

LE PETIT ETUDIANT

DE FRANÇAIS

趣味の佛蘭西語講習錄

ジ・グエルニエー, 杉田義雄 校閱

田島清 編著

六ヶ月完成・内容見本送呈

會費 一ヶ月金一圓 (送料金四錢)

會費 三ヶ月金三圓 (送料共)

會費 六ヶ月金五圓五十錢 (送料共)

白水社發行佛蘭西語書類

**L'ART DE TRADUIRE
EN FRANÇAIS**
enseigné par
**les exemples pratiques et
les explications grammaticales**

例解 和文佛譯法

板倉貞男著

佛語界に久しく渴望せられた本書は、その豊富なる作例と懇切なる解説とによつて讀者を満足せしめるに十分である。著者例言の一節に曰く、『本書第一篇は、邦文佛譯法の豫備篇として、文法の説明に重きを置きたる關係上、從來我國に行はれたる内外多くの文法書を渉獵して、例解一百題を採録し、博く例示を掲げて説明を補足したり。

第二編は應用篇にして、本篇に於ては無味乾燥の例題は決して學徒に忠實なる所以にあらざるを信じ、専ら題材を時事問題又は日常市井の出來事に採り、以て研究者の實感に訴へ興味の裏に邦文佛譯法の要綱を會得せしめむことを期したり。……』

クロース製四六判三百五十頁・定價金貳圓八拾錢・書留送料拾八錢

佛蘭西文學會編

佛蘭西語動詞變化の栞
L'ART DE CONJUGUER LES VERBES

佛和辭典と共に日常座右に缺くべからざるもの。
印刷鮮麗攜帶至便・三六版・携帶用洋布薄表裝・
定價壹圓・送料四錢

白水社發行佛蘭西語書類

内藤濯著

實習佛蘭西文典

Nouveau Cours de Grammaire Française

中級用教科書又は獨習用として權威ある唯一の文法書で既に定評がある。版を重ねること十數回。

四六版・洋布裝二百五十頁・定價壹圓七拾錢 送料八錢

『ラ・スムーズ』編

基本佛蘭西文典教科書

Cours Abrégé de Grammaire Française

高等諸專門學校初級用

簡明にして要を盡せる本書は高等諸專門學校に於いて續々採用、發行後旬日にして重版また重版、今や訂正第六版成る。

四六版・洋布裝七十餘頁・定價金七拾錢・送料金四錢

『ラ・スムーズ』編

モウパッサン中篇小説選

MAUPASSANT: DEUX NOUVELLES

中級用教科書

前書の後を受けて津々たる興味の内には讀書力の啓發に資したるもの。

四六版・洋布裝九十頁・定價金八拾錢・送料四錢

白水社發行佛蘭西語書類

瀧村立太郎編著

新式佛語提要

NOUVELLE METHODE DE LA LANGUE
FRANÇAISE

初等用——獨習用——教科書

四六版・洋布裝三百頁・定價金貳圓・送料拾貳錢

佛蘭西文學會編

フランス語教科書

LIVRE DE LANGUE FRANÇAISE

初級中級用教科書

定價金壹圓 送料六錢

杉田義雄編著

麥の一粒

UN GRAIN DE BLÉ

初等短期講習用教科書

定價金六拾錢 送料四錢

『ラ・スムーズ』編

ダヴネル論文貳編

D'AVENEL: DEUX ESSAIS

上級用教科書

定價金五拾錢 送料四錢

白水社發行佛蘭西語書類

佛蘭西文學會編

盲人

(外一編)

M. MAETERLINCK: LES AVEUGLES ETC.

中級用教科書

定價金五拾錢 送料四錢

佛蘭西文學會編

伯林攻圍

A. DAUDET: LE SIÈGE DE BERLIN

中級用教科書

定價金五拾錢 送料四錢

佛蘭西文學會編

こころ

ED. DE AMICIS: CUORE

(TRADUCTION FRANÇAISE)

中級用教科書

定價金八拾錢 送料六錢

佛蘭西文學會編

コロンバ

P. MÉRIMÉE: COLOMBA

(EXTRAITS)

中級用教科書

定價金七拾錢 送料六錢

白水社發行佛蘭西語書類

——佛蘭西文學會編——

C O N T E S
D'AUTEURS FRANÇAIS
CONTEMPORAINS

高等諸學校中級用教科書
(近代佛蘭西名家短篇選集)

各冊定價七拾錢 送料四錢

~~~~~  
第一輯內容

- Gaston Paris: .....Les trois aveugles de  
Compiègne  
Gaston Paris: .....Merlin Merlot  
Anatole France: .....Scolastica  
Anatole France: .....Le Jongleur de Notre-  
Dame  
Jules Lemaître: .....La Cloche  
Jules Lemaître: .....Le voeu de Vivien  
Jean Moréas: .....Gugemer  
Jean Moréas: .....Les trois larrons

第二輯內容

- Guy de Maupassant: ....Deux amis  
Guy de Maupassant: ....Un parricide

白水社發行佛蘭西語書類

- Emile Zola: .....Le grand Michu  
Emile Zola: .....L'Inondation

第三輯內容

- François Coppée: .....Le morceau de pain  
François Coppée: .....Les vices du capitaine  
René Bazin: .....Le moulin qui ne  
tourne plus  
René Bazin: .....La légende de Vaira  
André Theuriet: .....La truite  
André Theuriet: .....La pipe

第四輯內容

- Prosper Mérimée: ....Mateo Falcone  
Prosper Mérimée: .....La vision de Charles  
XI  
Prosper Mérimée: .....L'enlèvement de la re-  
doute  
Charles Nodier: .....Lidivine  
Charles Nodier: .....L'homme et la fou mi

第五輯內容

- Gustave Flaubert: .....La légende de Saint-  
Julien l'hospitalier  
Alphonse Daudet: .....Le secret du maître  
Cornille  
Alphonse Daudet: .....La chèvre de M.  
Spguin  
Alphonse Daudet: .....L'homme à la cervelle  
d'or

白水社發行佛蘭西語書類

白水社譯註叢書

日本の讀書界でひろく親まれてゐる作物で藝術味の豊かなものや、かの國の代表的作物を佛蘭西語を介して味はつて見たい人のためや、美しい佛蘭西語の研鑽を重ねて世界新舊文明の眞生命に味到せんとする人々のために企てられた本叢書は洗練流麗な譯文と懇切明快な解説と相待つて眞に得難き學徒の寶典であります。今後續々刊行致します。

オスカー・ワイルド 原作  
内 藤 溜 譯註  
宮 原 晃 一 耶

對譯註 **サロメ**

(SALOME)

四六版・ホブリン裝釘  
定價壹圓三拾錢・送料六錢

■ 佛蘭西文學譯註叢書第一篇 ■

岸田國士譯註

モウパッサン二人の友

四六版・洋布裝  
定價金壹圓五拾錢  
送 料 金 八 錢



548  
14

終